THE INTERNATIONAL GRAPHIC

國際寫眞情報

関東大震災号

大正十二年十月十日發行 第二卷第十一號

大正十二年九月二十九日印刷納本 大正十二年十月十日發行 第二卷第十一號（毎月一回一日發行） 大正十一年八月二日第三種郵便物認可

發賣禁止改訂版



東京 國際情報社發行

The International Graphic

國際寫眞情報

関東大震災號

■大正十二年十月十日發行■ ■第二巻第十一號■

関東大震災号の發刊に就て

それは全く吾等の、有らゆる意想を超ゆること余りに甚しき一大異変であった。大正十二年九月一日午前十一時五十八分四十四秒六の時、突如関東の地は大激震に襲はれた。―地震よ―と思ふ間もあらせず、東京、横浜、小田原、鎌倉その他附近一帯の市町村落は、家の倒潰、海嘯、山崩れにこの世の終りにやあらんと恐怖の極点に達したが、続いて起る各地各所の火災に真にこれ焦熱地獄の惨は目前に展開し、吾が東京市の如き江戸開府三百年、東京遷都五十年の文化は倏忽として焦土に帰してしまった。

身を喪ふ者、肉親を喪ふ者、一家を挙げて死滅する者、身の傷く者は数を知らず、纏ふに衣無く眠るに家無く、喰ふに食無き、喪家喪神の人は数ふる遑なく、すべてこれ痛恨・傷心の種ならざるは無い。瞬時の前は、東方覇国の王府に、燦然たる文化の光輝に浴し、生活の恵み豊なるを謳歌したるに、何すれぞそれ自然の暴虐の余りに甚しき。

本社またこの災火に罹り社屋全焼し、全社員僅に身を以て脱したる有様であった。しかし乍ら、この非常の秋に際しこれを後昆に伝ふべき完全無欠なる写真記録を攻究するは、実に本社の使命なるを思ひ敢然として万難を排し、編輯、印刷に不眠不休の努力を続け、大災後二旬余にして急遽本号を世に出し得たるは同人の本懐とするところである。

今次前古未曾有の震災は、天意の何処にありて斯くせりや、推するに由無しと雖もこれこそ天の吾等に対する一大警策なりとも謂ひ得べく、心身の緊張奮発はより強き反撥を以て今後の帝都その他各地の復興に最大限の人力を揮ひ、更に真摯なる生活、熾烈なる意気とに依る人間生活の真実境に入る機会なりと確信する。本社はこの見地に立脚して大に社業の充実発展に努め、世に益せんことを茲に声明する。終りに臨み、多くの霊位に哀悼の熱涙をそゝぎ、罹災各位には満腔の誠意を以て同情の意を表するものである。



大震災前の東京















1. 殷賑を極めたる銀座尾張町。
2. 京橋より日本橋通りを望む。
3. 警視廳の建物。
4. 三越呉服店。
5. 日本橋。
6. 白木屋呉服店。
7. 神田須田町。

大震災前の東京















1. 神田附近の家々。
2. 帝國劇場。
3 淺草公園六區。
4. 上野廣小路松坂屋呉服店。
5. 淺草公園六區。
6. 上野ステーション。
7. 兩國橋ご國技館。

大地震當日の麹町有樂町附近……………



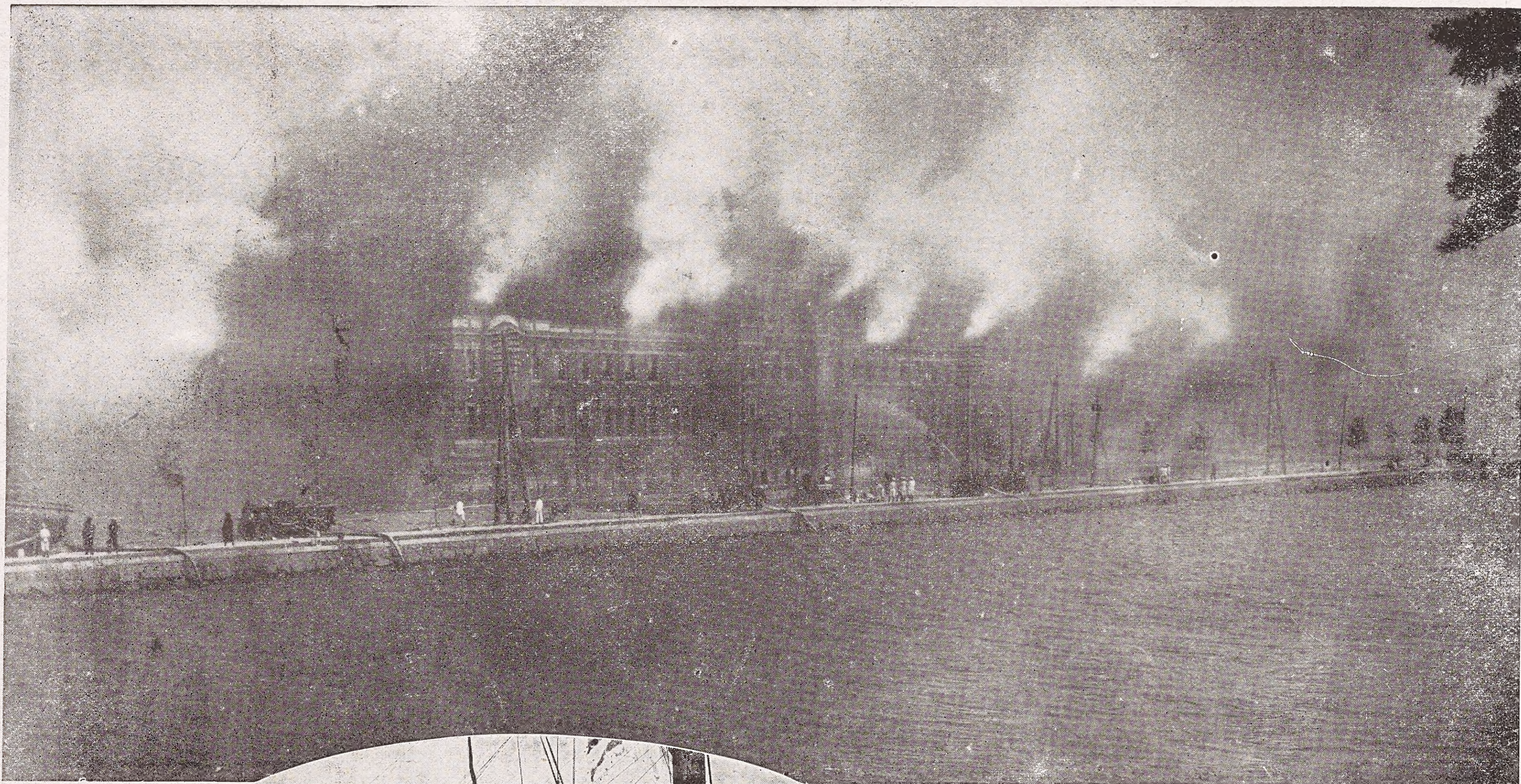
數寄屋橋附近の高樓より撮影したる有樂町方面の火災で、大震一時間後の光景である。



大震直後東京驛前に集つた避難民。

大震一時間後・日比谷公園附近の猛火……………

丸の内方面の惨状……………





上圖は　火焰をふき出した警視廳。
中圖は　燒け落ちた警視廳。
下圖右は　門柱のみさびしく殘つた大藏省。
下圖左は　これも門柱と門衞小屋だけのこつた內務省の光景。





日本橋方面の慘狀

上圖は、呉服橋附近より日本橋方面を望める光景。



慘憺たる日本橋畔。

日本橋魚河岸の燒跡　當時の面影をしのぶよしもない。



日本橋方面の慘狀……………………………

日本橋々畔の大建築で、櫛比した會社商店は無殘にも倒潰し燒失してしまつた。



神田鎌倉河岸より見たる新常盤橋方面で　この附近一面は火の海と化したのである。

京橋木挽町遞信省の燒跡……………………

芝方面の慘狀……………………………………



芝區虎の門附近の慘憺たる光景。



芝區愛宕山上より新橋方面を望む。

芝方面の慘狀



上圖は

芝區愛宕山上より新橋方面を望んだ光景。にぎやかであつた街はあと形もなく。一面の燒野原と化してしまつた。

右圖は

新橋ステーションの燒跡。





新橋ステーションを中心とする繁華であつた附近の街は寫眞のやうに燒けてしまつた。

日本橋方面の慘狀…………………………………



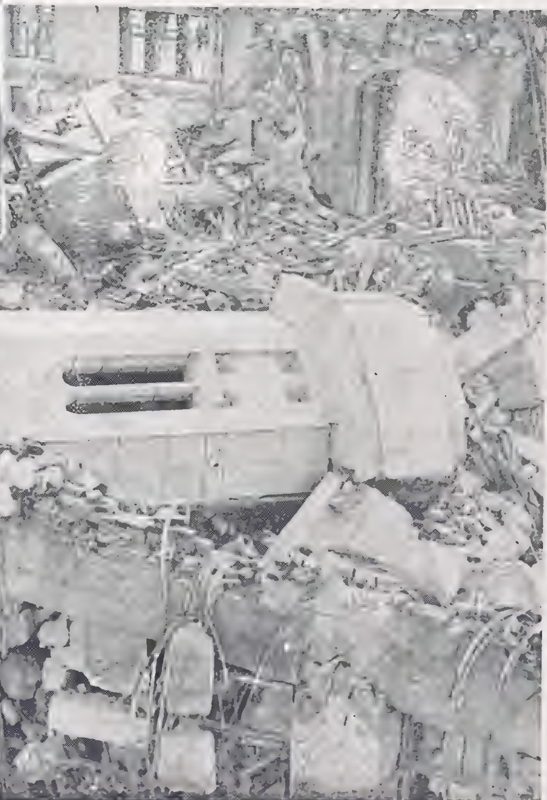


上圖は

呉服橋より三越呉服店附近を望んだ光景。

右圖は

日本橋通り三丁目丸善株式會社の燒跡で、さしも莊麗な建物もあめのやうになつてしまつた、



下圖は、

大破潰をした丸の內、內外ビルヂイングの慘狀。三百餘人が壓死して三人丈け助かつた。

京橋方面の慘狀……………………………………







上圖は
　京橋第一相互館附近の慘狀。
中圖左は
　京橋星製藥會社の社屋で　內部は全部燒きつくされてゐる。
下圖は
　東京驛前の施米。

不思議にも殘つた淺草觀音堂…………………



上圖は　慘害の甚しかつた厩橋附近の光景、さしもの隅田川を猛火は遠慮なく飛び越へた。
下圖は　淺草方面の火元の一つである藏前高等工業學校の燒跡。



淺草方面の慘狀



上圖は、淺草十二階爆破の光景。
中圖は、淺草公園の悲しい賑ひ。
下圖は、公園六區御國座附近。





繁華なりし銀座通りの燒跡……………………



銀座通りで最もにぎやかなりし尾張町附近の光景。



銀座通りで最もにぎやかなりし尾張町附近の光景。

繁華なりし京橋銀座通の燒跡……………………



京橋銀座尾張町の十字路より見たる築地方面。寫眞右方は歌舞伎座である。



京橋銀座通り尾張町附近の燒跡でさしも繁華をきはめた日本第一の商店街は全滅してしまつた。

本所方面の慘狀……………………………

厩橋附近の群集。



地震火事にたゝられ又も出水にたゝられる本所附近。

小石川・本郷方面の惨状…………………………

本郷と神田の境なるお茶の水がけくづれ



小石川砲兵工廠の焼け跡

丸の内方面の慘狀



上圖は　宮城前の避難民とそのかり住居。





左圖は　半ば倒潰にひんした東京會館。

上圖は　震害の甚だしさを示す郵船ビルディング。

日比谷公園内の避難者・・・・・・・・・・

日比谷公園内鶴のフン水の池で行水や洗ひものをする避難民。



無殘にも倒潰した音樂堂に借りの宿をもとめてゐる避難民。

丸の内京橋築地附近を望む・・・・・・・・

築地方面を望む、中央の煙突は東京名物であつた木村屋パン店の工場。



丸の内方面を望む。

荒涼たる東京の中心銀座尾張町より

京橋、日本橋方面を望む。



築地方面を望む。

神田方面の惨狀・・・・・・・・。。。。

神田カマクラ河岸より印刷局及び宮城方面を望める光景。



大破せる神田橋の修理に大多忙の工兵隊。その後方は、鐵管を渡る群集。

神田方面の慘狀…………





上圖は、神田駿河臺ニコライ會堂附近の燒け跡。會堂の大建築も今は見る影もない。その下は、電車の横腹に貼られたいろいろの掲示。



上圖は、神田須田町。廣瀨中佐の銅像だけは儼然としてゐる。
下圖左は、神田今川橋松屋呉服店の燒跡。
下圖右は、雨の中を馬力に乘つて避難する人々。





神田方面の慘狀・・・・・・・・・・・・



神田一ツ橋の工兵隊架橋工事の光景。



神田神保町より水道橋方面を望む。

中央より左側の白い建物は氣シヤウ臺。



神田橋より小川町を望む。



小川町附近の罹災者。

日本橋方面の慘狀





上圖は、日本橋より見たる三越吳服店。
下圖右は、日本橋々畔にある細長い建物として人目をひいた帝國製麻會社の社屋。
下圖左は、銀座通りにひろげた古着商。

上野方面の慘狀…………

上野山上より見たる淺草、千住方面の光景。



上野廣小路の雜沓で今は去りし日の面影もなく悲しい賑ひを呈してゐる。

ものすごい大地の龜裂



地震に地割れはつきものだが、現在目のあたりその物凄さを見せられると慄然とせざるを得ない。
上圖は
宮城前凱旋道路の大龜裂である。
下圖は
小石川大曲り附近。江戸川べりの大龜裂で。このあたりは所々に道路の龜裂、陷落があつた。

氣の毒な罹災者…………………………………………

上圖は　芝山内の增上寺山門内に避難した人々の家財道具の山である。



下圖は　赤坂山王下に避難した人々の急造住居で、場所がら藝妓屋が多い。

氣の毒な避難民







上圖は
日比谷公園の花壇內に避難した人々の急造住居。
中央右は
鐵道線路に避難した人々。
左は
日比谷公園內で食料の給與をうけてゐる避難民。



上圖は　参謀本部ににはかに看板を上げた戒嚴司令部

宮内省が羅災民の中の產婦や婦人病の施療に市中を巡廻してゐる光景。



多くの死者を出した本所被服廠前の回向所。



青山實踐女學校生徒が羅災民の衣服を裁縫してゐるところ。



アメリカの兵士が大使館の燒跡で灰かきに從事してゐるところ。



攝政宮殿下の市内御巡視…………





大震當日
上野に避難した人の雜沓。





左右共に
避難民が食物
の給與をうけ
てゐるところ。



宮城附近……………

上圖は　地方より救援に來れる警官の一團が宮城前を通行してゐるところ。







上圖は
罹災民が郷里に通信の便をはかつて設けられた野外郵便局ですべて無料で通信した。

中央右は
宮城の石垣にはられた迷ひ人をたづねるはり紙や、官邊の掲示前に群つてゐるのは氣の毒な避難民である。

下圖は
芝公園内に建築中の避難民收容所で三井家が寄附をしたものである。この中にはたれでも住むに家のない人人を入れる。

兵士の大奮闘振り……………………



左圖及び下圖は
これも工兵隊が電車軌道の大修理に努めてゐる光景。





殆ど全滅の鎌倉

上圖、社殿倒潰した鶴ヶ岡の八幡宮。
右圖、前方に傾いた長谷の大佛。
左圖は、大町一帶の慘狀。



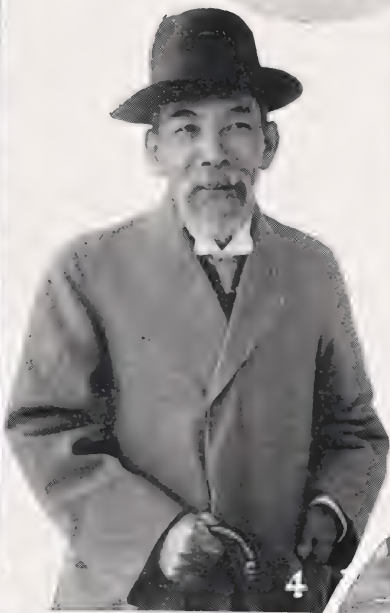


大震災の二日めに成立した山本內閣















1. 首相
   山本權兵衛氏。
2. 內相後藤新平氏。
3. 農相田健次郎氏。
4. 遞相犬養毅氏。
5. 藏相井上準之助氏。
6. 海相財部彪氏。
7. 陸相田中義一氏。

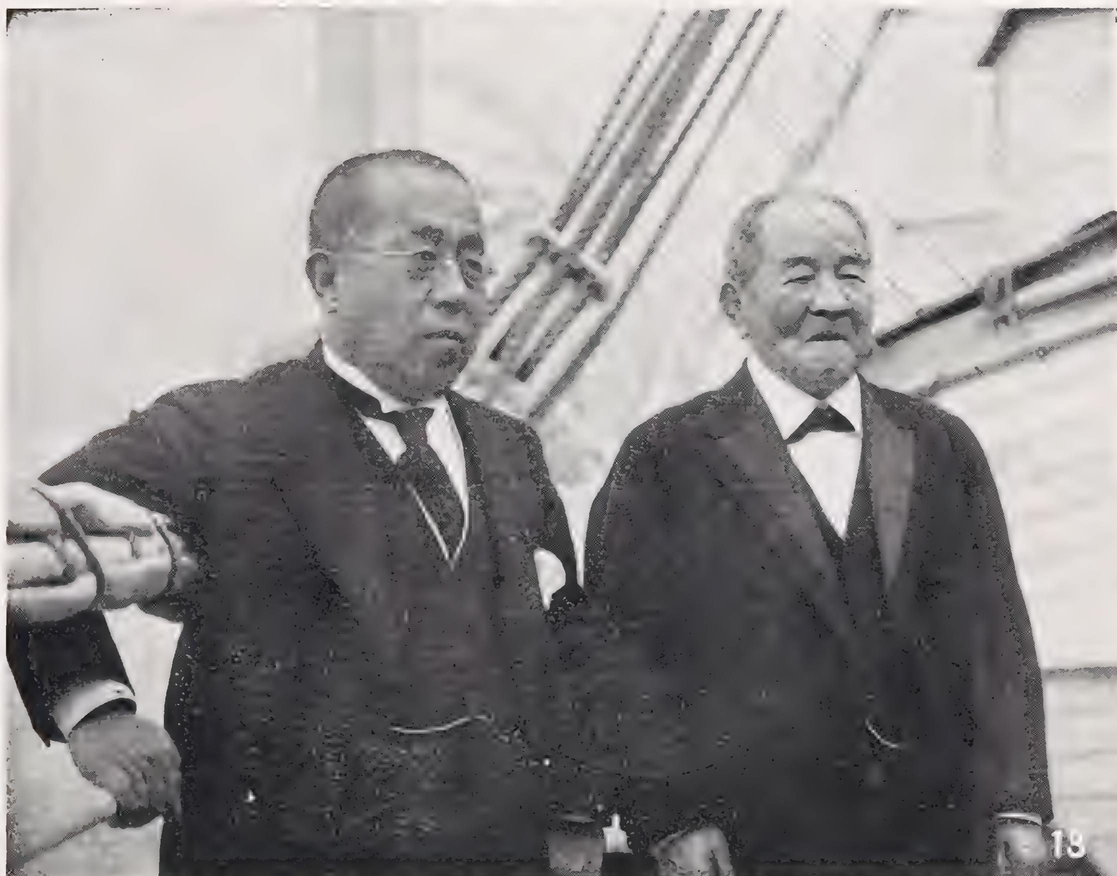








8. 文相岡野敬次郎氏。
9. 外相伊集院彥吉氏。
10. 鐵相山之內一次氏。
11. 法相平沼騏一郎氏。
12. 震災善後會の肝煎役さして活動してゐる粕谷衆議院議長。
13. 同じく右は澁澤子爵。
左は、德川貴族員議長。





橫濱方面の慘狀

橫濱郵便局の燒跡。

神奈川の明治製糖會社工場の震害。

横濱方面の慘狀





上圖、横濱の燒け殘つた正金銀行の建物。

下圖右、横濱驛を通過する無蓋車の避難民輸送。

下圖左、横濱足引町電車軌道の大破。

避難の人々

上圖、田端驛より避難する人々の行列。

下圖、田端驛のプラットホームに集つた避難の人々。

地震後の上野臺

上圖、首を落した大佛。





上圖、二科會の彫刻室、苦心の製作も無殘な有様となつた。
右圖、西郷銅像にはられたいろいろの貼紙。

上圖、箱根蘆の湖畔戒嚴司令部駐屯隊にて、右より本社々員小田原參謀兒玉大佐、箱根駐屯中隊長高橋大尉。



箱根方面雜觀

下圖、箱根山中の山くづれ最も甚しい所。







上圖、關東司令部箱根關門の表門。
右圖、三島六反附近で避難者を輸送する砲車。



左は、大磯驛附近の慘狀。



右は、箱根富士屋ホテル。



上は、淺草公園仲見世のやけあと。

淺草の惨状

四階からやけ落ちた淺草名物の十二階。

横濱の
慘狀

慘憺たる横濱市の全景。

横濱稅關附近の燒跡。



去る人　來る人

上圖は、芝浦に着いた地方からの見舞人。下圖は、品川驛から乘車した避難者。

日本橋方面の慘狀



上圖、あはれ日本橋も寫眞のように、さびしく立つてゐる。
右は、三越附近の慘憺たる光景。





下圖は、見るも無殘にやけくづれた白木屋吳服店で、三越とくらべるとその災害が如何にもひどい。

横濱市内の慘狀、燒けくづれた開港記念舘附近。

横濱市の慘狀





上圖は、
神奈川附近のやけあと。
下圖右は、
川崎驛に停車した乘客すゞなりの貨物列車。

京橋方面

上圖、京橋丗間堀の慘狀。
下圖、燒け殘つた大金庫。

赤坂のくづれ家

震災雜觀 ▼▼▼▼

上圖は、食料を積んで芝浦に着いた三菱の船。

下圖右は、日比谷新音樂堂に於ける野外小學校。

下圖は、八ッ山と大井間を往復する馬力。





△前古未曾有の慘事▼

関東大震災の記

安政の大地震から恰も六十九年目と云ふ大正十二年九月一日午前十一時五十八分に日本國民に取つては永世忘れる事の出來ぬ大慘禍がひき起つた三百年の文化の華と誇つた我が大東京市を中心として、横濱、横須賀、鎌倉、小田原の湘南地方を始め、房總半島の一角に至るまで、開闢以來未曾有の大地震に襲はれて大厦高樓相踵いて倒れ、火災八方に起り焔々たる紅蓮の猛火は天を焦して僅々一晝夜の中に東洋文化の華と呼はれた帝都の大部分は見るも無殘や焦土の原と化してしまつた。東洋文華の關門と呼ばれた横濱市の如きは、實に此大地震と共に殆ど全滅して跡を止めず、横須賀小田原、房總沿岸等、又東京同樣の大慘害を受けたのであつた。

九月一日

此大慘害の當日は一般農家の氣遣ふ二百十日の前日で、朝來蒸し暑く天何となく慌しく、晴れたり曇つたりの心持惡い日であつたが、東京市民が今や午飯の箸を採らんとする時刻に、俄然異樣の音響と共に大地は忽ち大波を打つて、大しん動を起しスワヤと思ふ間もなく大厦崩れ高樓倒れて、忽ち黄色を帶びたる土砂の煙は八方より天を蔽ふよと見る間に、阿鼻叫喚の聲各所に起りて、傷く者、壓死する者、數を知らず呻き叫ぶ聲未だ消えざる間に、忽ち

丸の内日比谷公園

のあたり、警視廳 裏手に火の手が揚がると共に、有樂町二丁目より三丁目に燃え廣がり、見る間に警視廳及帝劇の大伽藍を燒いて更に數寄屋橋方面に移り、有樂座、日比谷大神宮、東京ホテル其他の大建築を一舐めにして猛威を極め一方赤坂新町から起つた火は、山王下の電車通りを一撫でにして、虎の門に及び、伏見宮邸と琴平神社の一角を殘して、米國大使館を燒きて靈南坂を上り、大倉氏の集古館を始め芝區に入りて、西久保より南佐久間町、愛宕下、櫻田本郷町等を燒き拂つて、遂に新橋に出でた。是より先き

京橋方面

は宗十郎町鍋町山城河岸の三ヶ所より一時に起つた火は、渦卷き起る烈風に煽られて、忽ち銀座通りに出で、更に川向ふなる丸の内幸町より起つた火は川を越へて江木寫眞館を燒き、一擧にして銀座通りに突出した、山下町にあつた本社は山城河岸より起つた、火焔のために遂に午後四時頃に至つて燒失せられた、斯うして東京目抜きの場所と呼ばれる銀座附近も、僅々地震より四五時間の間 焦土と化して、朝日國民時事萬朝やまとの五新聞社を始め、新橋南北の花柳街を始め銀座通の大建物を一舐めにして、更に築地方面に移り農商務省、遞信省、精養軒、築地本願寺など一瞬に燒いて 遠く月島にまで燃え廣がつた。

渦卷き揚る紅蓮の炎は夜に入ると共に、人の世を悉く燒き盡さん勢ひで、天を焦し芝區内に入つた火は宇田川町濱松町を燒いて、僅かに芝公園增上寺の一角を殘して、芝浦埋立地の附近に出でたが、一方晝の中より燃え廣がつた神田三崎町錦町方面の火は、九段下より神保町通りを小川町に出で、更に別れて濠を越へて丸の内に移り、大藏内務、文部の各省を始め、印刷局其他を燒いて日本橋に迫つた、さうして神田の火は更に延びて須田町より柳原神田一面を舐め盡して、淺草に入り殆ど止る處なく八方に燒え廣つた。然るに震災の害比較的尠かつた

山の手方面

も先づ本郷帝大附近に火の手揚り、春木町、切通し、湯島天神町より下町に下り、麴町では中六番町より出でたる火が三番町隼町元園町を燒いて半藏門に出で、小石川砲兵工廠より起つた火は九段下飯田町邊よりもえ廣がつた火と合して、湯島の聖堂をも燒いて了つた。地震と共に起つた火は始めの中は極めて尠かつたが、午後三時頃には思ひも寄らず各所に起つて、其夜の東京全市は殆ど火の海、焰の街と化し、大手町方面より來た火のために三越も白木屋も燒け落ちた。

銀座方面

では京橋の第一相互の大建物、星製藥なども燒失した本郷から下町に出でた火では外神田一圓を燒いて、上野廣小路に出で、松坂屋其他の大建物を一なめにして、下谷區内は忽ち焦土と化して、今や淺草方面に起つた火と相合して墨田川を境とし、遠く千東馬道より吉原方面の火と更に相合して、怖しき焦熱地獄の阿鼻叫喚の聲を至る處に揚げさせた。市民の歡樂境たる

淺草公園

は、此日恰も一日とて午前中より人出多く、各種の娛樂興行物も、既に開演中であつたので、晝の地しんと共に逃げ惑ふ老若男女の悲鳴で物凄い位であつた處へ、建物としては名物になつてゐた十二階が中程より倒潰して、其下に當る花屋敷、千東町の一部は多大の死傷者を出した騷ぎの處へ、新吉原方面及び下谷方面より燒け來る火のために包まれて燒死する者多數、新吉原一廓だけでも千五百名以上に上り、更に逃げ延びて墨田川を渡る能はず、水に溺れて死する者又其數を知らず、子を抱きたる儘に死せる母、姉妹相擁して燒死せる者、馬牛の死骸など算を亂して流れに浮いた、兩國橋より淺草橋に至る僅か一丁の街路にさへ、逃ぐる能はずして燒死せる者百餘に及んだ。が淺草觀音は不思議にもやけ殘つた。而も是より更に更しい慘鼻を極めたのは。

本所と深川

で、一時に數ヶ所より起つた兩區の火は晝より夜の三時頃に掛けて、殆ど二區全部をやき拂ひ、到る處に屍の山を築いた中に深川區は地しんに次いで海濡來るの噂に、洲崎方面の埋立地に避難する者尠く、ために次ぎより次ぎへと逃げ延びて、最後に火にやかるゝ者非常に多く、本所區の如きは避難する廣場尠きため、多くは被服廠跡の廣場に我も〳〵と詰め掛けて、荷物と共に茲に避難せる者實に四萬人以上に上つた。然るに本所一圓は既に火となり、墨田川一つを境にせる淺草方面又數十丈に達する一大火柱を揚げて、相迫つたので 本所の火と淺草の火と空中に相合するや、忽ち一大旋風を起して、被服廠内の避難者の上を一なめにして見る間に三萬二千八百人の死骸の山を築き上げると云ふ、古今未曾有の大慘事を現出するに至つた。

斯くてさしもに猛威を振つた火は、最早もゆる物なき處に至つて止まり、翌二日の午後に至つて、東京の中心地たる下町全部を、一面の焦土としてやんだが、此二日間に於て燒失せる戶數燒死せる人間實に戶數四十一萬一千戶死者七萬、罹災者百三十五萬人に上つた。

横濱の慘害

東京に次で最もしん害の甚しかつたのは横濱市であつた。凄しき空鳴りと共に大地しんふと見る間に全市の家屋悉く倒潰し至る處の街路に大龜裂を生じて、水道管の破裂は忽ち各所に夥しき洪水を起し、同時に八方より火を吹きて一瞬の間に全市火と水の大地獄を現出して死する者其數を知らず、殊に同市の中心地たる關內及海岸通の慘狀は一層甚しく、外國人居留地たる山下町方面は逃ぐるに遑なく海中に入りて死する者多く、正金銀行建物跡及び末吉町ガード附近に避難せる老若男女は八方より火に迫られて、遂に兩所とも數百名の慘死者を出すに至つた、櫻木町驛附近の柳橋より吉田橋に至る僅かの間の河川にさへ、人と馬の死骸累々として漂ふの酸鼻の極を現出し、而も二日三日に至るも死屍の始末付かず、飢民の群れと無賴の惡漢は殆ど一望の焦土となりたる全市を逍ひ、此世ながらの修羅場を現した、航海者に取りて唯一の目標となれる本牧の鼻は崩潰し長く海中に突出せる防波堤及び燈臺も破壞して、僅かに殘つたのは根岸競馬場附近、神奈川、蒲田の一部にして、保土ケ谷の如きは富士紡の工場全壞して、一時に女工千五百名慘死するの悲慘の極を見せた、慘憺たる横濱市に於

ては裁判所の倒くわいと共に末永裁判所長以下判檢事悉く壓死し、鐵の橋際なる伊勢佐木町警察署又倒壞と共に數十名の警官壓死し、山下町の外人も殆と壓死或は燒死した電車線路は至る處大龜裂と陷沒を生じて、線路は蜘蛛の巣の如くに折り曲つた程であつた、斯くして全滅なる横濱市の慘害は燒失倒壞家屋七萬二千戸、死者約三萬に達するの慘狀を呈した。

湘南地方

神奈川縣下に於て最も慘害の甚しかつたのは横濱市に次いで横須賀、鎌倉小田原である、殊に横須賀市は一萬三千戸の家屋倒壞して、死者約一千を出し、殆ど全滅の慘を見たが死者の割合に尠かつたのが僥倖であつた、鎌倉は鶴ヶ岡八幡宮及び建長寺、圓覺寺、鎌倉宮、長谷觀音等殆ど鎌倉の生命とせる、名刹古寺社の建築物一時に倒壞して見る影もなき有樣となつた、長谷の大佛の如きすら尺余も横に曲る程の有樣で數ある諸名士の別莊民家等は、殆ど悉く倒壞し海濱院の如きは倒壞と共に火を失して、見る間に燒け失せた。而も此地しんと共に襲ひ來れる津波は約百五十名の人命を奪ひ、家屋六千三百戸、死者五百名を出し、海道一の名手たる江の島は棧橋を奪はれ、全島の家屋悉く倒壞し、島の中央に大龜裂を生じて慘憺たる中に孤立の有樣となつた此災害中、殊に御悼ましきは皇族御三方の御他界である。鎌倉では山階宮武彦王妃佐紀子殿下が御妊娠四ヶ月にあらせられ鎌倉の賀陽宮御別邸で母君賀陽宮大妃殿下御別座吾妻博士が拜診中俄然家屋破壞して御痛ましくも御他界あり、大妃殿下には御負傷遊ばされ、小田原では閑院宮寛子女王殿下同じく御別邸倒壞の爲十八歳の花の御姿もあはれ再び拜する由もなく、鵠沼では牧田別邸に御避暑中の東久邇宮第二王子師正王殿下も御悼ましき御最後を遂げられたが、一時死を傳へられた松方公は無事倒壞家屋の下から救ひ出された

箱根の麓なる小田原町も一帶に家屋倒壞して、全町の七分を燒き拂ひ僅かに南方の一部を殘して死者二百五十名を出し、箱根は僅かに小涌谷、仙石、大平臺の一部分を殘し全山の被害甚しく、山崩れと家屋倒壞及び海中に埋沒せる山下一帶の死者は約四千名に上つた、殊に湯本、塔の澤、宮の下、底倉あたりの溫泉旅館は悉く倒壞して、避暑客の死傷者は又多數に上つた。此外同縣下に於ける平塚町は火藥庫爆發し相模紡績又全壞して死傷七百を出し戸塚町倒壞九百戸死者七十名、藤澤町は火災の禍は免かれしも中央部の被害最も甚しく、倒壞家屋七千戸、死者三百六十名に上り、更に浦賀、伊豆伊東熱海、葉山等も被害甚しき有樣であつた。

千葉縣下一帶房總地方は安房が殊に甚しく、內灣に面せる北條、館山、那古、船形、千倉方面では潰滅家屋一萬四千戸死者千三百名に上り、船形の如きは地しんと共に火災を起して八百戸の全町忽ちに烏有に歸して、燒死者又多數を出した、併し大平洋に面せる銚子町九十九里方面は、割合に被害尠く成田千葉市川方面も又茲に擧ぐる程の被害を見なかつた。

不逞鮮人問題

京濱地方がしん災に全市を擧げて大混亂をやつて居る中に突如不逞鮮人來襲の風說があつた。一犬虛を吠ゑて萬犬實を傳ふるの類で、中には少數の者が或は不ていであつたかもしれないが大多數のものは善良なものであつた、が横濱市全滅の爲三々伍々食を求め、東上したのと、一部横濱の囚人三百名の解放說とがあやまり傳へられたものであつた。大火災中鮮人が爆烈彈を以て重要建築物を破壞した樣に傳へられて居るが、此れ又誤聞であつて、一度に八十八ヶ所から出火した原因の多數は學校の化學敎室寫眞屋藥種商の化學藥品の爆發であり、アノ火災中の殷々たる轟音は工兵隊が防火の爲ダイナマイトを以て建物を破壞した爆音であつた甚だしきに至つては九月四日東京より海路千葉縣船橋町への避難者を不てい鮮人三百上陸し危險切迫すと云ひ觸らしたり、五日は何事もないのに殊更に大崎町は燒失し餘勢品川に及ぶ等と云つたり、見て來た樣なウソ八百で最も滑稽なのは林檎を爆彈等と見誤り電燈會社瓦斯會社、衞生組合の人夫が燒跡に心覺えの爲丸、三角等の符號をつけて廻つたのを不てい鮮人の暗號を見られたもので、聯隊の井戸に毒藥投入說も六日軍醫學校の調査の結果無根なる事が判明した。社會主義者が盛んに流言を放つた形跡があつたので片ッパシから檢束されて以來又一面、戒嚴部及び警視廳の宣傳が効を奏して人心が靜穩になり、善良なる鮮人は皆警官に救護され中には相愛會の如きは健氣にも無償を以て人形町附近の燒跡取片付きに從事し又線路改修にも努力してゐる。

戒嚴令

一日は騷ぎと不安の中に一夜を明かしたが、二日夜遂に陸軍大將福田雅太郎を關東戒嚴令司令官に任じて東京、神奈川、千葉、埼玉の一府三縣を戒嚴地として集中した兵力は步兵二十一個聯隊騎兵六個聯隊、はう兵七個聯隊、工兵十八大隊、其他各種の技術兵、衞生隊の殆ど全部五個師團で恰も大正十年關東平野の特別大演習の參加兵力に相當する、右の大兵力が殆ど日本全國の各地から殊に準備の時日もなく、早きは一日遲きも十日內に集中を完了した事は驚嘆に値する。其警備網は西は三島御殿場より秦野、厚木附近相模平地を蔽ひ北は埼玉の北部東は銚子佐原附近南は房州館山に迄擴張せられた。

消防狀態

地しんと同時に市內各電信電話は不通となつたので、これに伴ふ市內七八十ヶ所の出火元も當時は殆ど判明しなかつたが眞ッ先に燒た消防本部は鎭火後麴町區半藏門の消防練習所に移り、三日に亘る大火災の情報を市內六消防署から取りあつめ緒方消防部長を初め連日精査した。それによると一日午前十一時五十八分からわづか十分間內に發火したものは實に七十六ヶ所でその最初は風速十七メートルの南風であつたが、大火に伴つて所々に氣流の變化を起こし同夕刻までに三回に亘つて風向きをかへ漸次烈風になり、また局部々々に旋風を起こし水道は十數分後には使用出來ずわづかに池水、河水を利用して消火につとめたに過ぎなかつた。三日間の出火總數は八十八ヶ所で內二十三ヶ所を消し止めたのみであつた。二日には出火したものなく原因については殆ど取調べが出來ぬが放火と判明したものはまだ一つもない、多くは地しんに伴ふ藥品又は竈の火及び飛び火の類で、十三日までに同署で判明したものを六消防署別にすると

第一消防署　一日午後〇時三分發火有樂町二　色活版所附近原因不明△同日比谷公園內松本樓同△同麴町大手町東京瓦斯電氣工業會社同△京橋岡崎町一丁目同△銀座芝浦モーター會社同△同月島西仲通三丁目同△同四分靈岸島鹽町同△築地一丁目方面同△南小田原町海軍造兵廠同△同五分有樂町東京電燈會社同△京橋南新堀町二丁目同△同山下町方面同△同加賀町方面同△同麴町元千代田町帝室林野局同△同大手町內務省飛火△月島西仲通り四丁目不明△三時廿分內幸町東京毎日新聞社裏同△四時卅分大手町大藏省官舍飛火△同虎の門東京女學館同

第二消防署　十一時五十九分發火芝愛宕慈惠院醫科大學藥局室藥品△同櫻田本鄕町九鞄店不明△同高輪臺町高輪御殿寶物館藥品△後一時四十八分白金志田町五不明△後十時赤坂榎町一飛火△十時卅分芝琴平町一同芝口一丁目方面同

第三消防署　一日午後〇時發火牛込市ヶ谷本村町陸軍士官學校原因不明△〇時一分麴町區中六番町一八明治藥學專門學校同△〇時二分麴町區元園町麴町高等小學校藥品△同赤坂田町四丁目なると料理店燒混爐△四谷區新宿旭町不明△三分神田區今川小路一の三同時三分麴町區富士見町五の四日本齒科醫專不明△三日午前四時四十八分麴町六丁目六不明

第四消防署　十一時五十八分發火萬世橋方面不明同富士町帝大理科研究所藥品▲同帝大外來患者藥局不明▲同理化學敎室同▲同同圖書室同▲同本鄕春木町三の一二水野藥局同▲同大塚町七三專修高女同　▲同目白學習院　▲同音羽町九丁目飛火▲〇時三分小石川はう兵工廠方面▲三日午後一時二十分下谷區北大門町飛火▲一日午後一時本鄕元町方面▲同午前十一時二十分順天堂病院

第五消防署　一日十一時五十八分發火淺草地方今戸町八五竈移火▲同淺草町四八▲同千束町二の十一セルロイド▲後〇時玉姬町八六營業用ろ▲〇時三分新吉原二の三二火鉢延火▲同新吉原京町二の五瓦斯の火▲同藏前片町一九藥品▲同淺草光月町一營業用ろ▲同千束町一の一五七藥品午後〇時十分千束町一の一二七油鍋▲不明下谷二の一六飛火▲〇時三十分淺草須賀町一七同▲同今戸町八同

第六消防署　同〇時本所德右衞門町四五不明▲不明柳原町一の二〇▲同太平町方面同▲押上町方面▲同菊川町一丁目方面同▲同若宮町三五同▲同橫川町八四同▲同八軒町方面同▲同向島須崎町二四〇同向島須崎町九〇同▲同深川安宅町二六同▲同東大工町方面同▲西平井町一九七同▲同西平井町四五不明▲同辨天町一の一〇同▲同猿江裏町五二同▲同西森下町方面同本所（深川方面は殆ど同時とも云ひたい程早い發火であつた）

地震區域

今を去る六十九年前の安政の大地しんよりも大きかつたとも云はれる今回の大地しんは九月一日午前十一時五十八分四十四秒六に起り、京濱及び一帶の地を搖り動かした。強しんの區域は西は丹後宮津福井名古屋に及び、北は石の卷仙臺に達し京都大阪の方面は弱しんの程度であるが、東京に於ける其後の強しんは一日の烈しんの餘しんで三日午前四時迄に人體に感じたものは大約七百回で初日以來有感覺のものは

九月一日　初しんより午後六時まで、百七十一回以上、午後六時より夜半迄五十一回

九月二日　午前〇時より六時迄、五十三回、六時より正午迄、八十一回、正午より午後六時迄、八十六回、午後六時より午後十二時迄、百〇三回

九月三日　午前〇時より午前六時迄六十四回、午前六時―正午迄、三十六回、正午―午後六時迄四十二

回、午後六時より午後十二時迄三十九回

九月四日 午前〇時より六時まで三十六回、午前六時より正午まで五十六回、正午より午後六時まで六十回、午後六時より午後十二時迄三十二回

九月五日 百四十八回

九月六日 七十八回

九月七日 四十五回

九月八日 六十六回

九月九日 四十二回

九月十日 三十二回

九月十一日 正午迄十九回

で約三年間の地しん回數を數日の中に搖つた譯で初しんのしん幅は實に四寸に達したのであつた。

震源地

については東京より二十二里、濱松より三十八里、神戸より九十五里の地點であるから右から計算するとしん源地は伊豆大島と熱海との中間と推定されて居る。尚東京に觀測する所によると、餘しんのしん源は東京から二十二里乃至九里の間にあつて強いものは概して遠く近いのは皆微弱なので伊豆大島の北西即ち熱海との中間から北東に三浦半島に延長した斷層線を構成したものであつたが、之れは後に中央氣象臺の中村博士が驅逐艇江風に乘じて視察の結果は地辷り地しんであつた事が判明し、地しんの最も激しかつたのが房州の內海、神奈川縣一帶、東京附近伊豆熱海附近で伊豆大島附近は反つて輕微であつたが土地がやゝ低くなり房州方面では約一間程隆起して館山灣內にあつた沖の島、鷹の島は水面上約二尺隆起した爲海岸から步いて行ける樣になり、熱海は溫泉の湯量が增加した。

地しんは豫報出來るか

東京帝國大學地質學教室の今村明恒博士は明治三十八年地しん學と云ふ書を著して、大森博士に反對し『地しん地域內にある東京市は平均百三年で大地しんがある。現在の建物及び水道設備では全市せう土に歸するであらう』と記述したので當時大森博士を初め都下の大新聞から、攻擊を受け一世の物議をかもした結果、餘議なく博士ヵ沈默してしまひ其學說も顧られなかつたが、今日初めて博士の豫言が實現して、東京は忽ちの中にせう土に歸してしまつた。若しあの時博士が斷乎として世間の物議文部省の壓ばくにも屈せずして其學說を主張したならば或は今度のしん害についても豫報出來たかもしれないのである

地しん學の權威者として見らるゝ大森博士が今村博士の說に反對する論據は、大地しんは起るとしても數百年の後で百年每と恰も近き將來に大地しんがある樣に云ふのは學說的に根據のない說であると云ふので、何故にかく數百年說と百年說と云ふ二說が分れるかと云へば大森博士はしん源地の範圍を縮少して計算し、今村博士は廣く計算して居る。別言すると、東京に大地しんの起るのは東京附近にしん源を有するからだと云ふのが大森說でしん源地が太平洋であつても東京には大地しんがあると云ふのが、今村博士の說である。故に東京附近をしん源地とする大地しんは元ろく十六年の大地しんから起算して一巡する迄に約五百年を要するから數百年後ならでは斷じて起らないと云ふ大森博士の說も、何ぞ計らん太平洋にしん源を有する今回の大地しんに東京は一タマリもなくつぶれてせう土になつてしまつたのみならず今村博士が地盤の硬軟によつて全市を四區に分類して置いたが、今度のしん害地圖と合せると全く符節を合はせた樣に一致して居る。又古來大地しんの前兆と見られる井戸水の混濁や不意に涸れてなくなる事も今度も見られて品川の漁師の古老のものが中央氣象臺に尋ねた事もあつたが今から、思へばしん害の前兆であつた、將來或は地しんは豫報し得るに至るだらうと思はれる。

耐しん家屋と建築界の革命

今回の大しん害で丸ノ內ビルディングを初め鐵筋コンクリートの大建築物が續々崩壞したので世間では非常に驚いて居る。調査によると木造二階建が一番弱く、次ぎが石造、木造の折衷若しくは煉瓦作りで、瓦葺き平家は比較的被害少なく、亞鉛葺木造及びカヤ葺は殆ど損害がなかつたので『今後の住宅は一階建の亞鉛葺に限る』と極端な論を吐く人もあるが、勿論是れは大きな災害におびえた一時の現象にすぎないその證據に完全な鐵筋コンクリートの代表的建物はビクともしないで殘つて居る。明治時代の建築界の三巨人と云はれる人達が立てた建造物を見れば皆心強さを感ぜられる。妻木博士の司法省、大審院、商業會議所、橫濱正金銀行、それから辰野博士の日本銀行、東京驛片山博士の赤坂離宮等殆ど瓦一枚落ちて居ない。それから現代の大家なる橫川博士の銀行集會所や、矢橋博士の內務省社會局、宮城內の樞密院などは皆少しも破損の跡を見せて居ない。

之れは完全な鐵筋コンクリートが地しんに對して立派な威力を持つ證據である日本橋方面のものも地しんには耐えたが火さいでやけ落ちた。只御化粧タップリの安雑作の鐵筋コンクリートは皆倒れて居る、內外ビルディンクの如き其隨一である。これは一般建築界に對する好い敎訓で鐵筋コンクリートならば建設費を惜まず充分吟味した完全なものを作り、それ丈けの費用のないものは耐しんに重きを置いた堅牢な、日本建築を作るが好いと思はれる。勿論都市計畫によつて新たに研究される建築法によつて制限されるのは勿論であるが商業地域でも三階以上の高層建築は暫らく建控ゆる事となり。住宅地には一階立に亞鉛葺で虛飾を避けた骨組の嚴重な實用本位なものが多くなり此しんさいが刺激となつて色々な建築學上の發明研究が生れて兎に角建築界に一大革命を來たすに相違ない。尚今回の大しんにより政府部內では建築調査委員會を組織し各方面の學者を網羅して一々破損箇所に就き建物の耐しん關係を調査し、今後の建築の參考資料に供せんとの議が持ち上つて居るがしんさい後市內に於ける高さ百尺以上の淺草十二階や丸ビル、日本郵船、海上ビルディング東京會館、日本興業銀行等の六大建築物につき專門的に研究を遂げた建築界の權威者渡邊工學士の調査に依ると今度のしんさいに破損した大建築物は嘗て大森房吉博士が耐しん關係を調査したその順序に破損の度が強くなつて居る事は敬服の外はない、即ち同博士は地しんに弱い大建築物は十二階、東京會館日本郵船、丸ノ內ビルディング、海上ビルディングの順で日本興業銀行は其度が少ないと發表されたが之が今度證明された譯で百尺以上の大建築物中何等の破損もなくエレベーターの運轉に支障なきものは、獨り日本興業銀行だけで而も適當の構造法に依り建てられたものは強しんにあつても平氣である事を實證した。右大建築物の破損の原因を調べて見ると何れも最近アメリカの構造法を其儘日本に移した事に缺陷がある。即ち柱と梁との組み合はせが地しんの樣に橫から來る荷重に對して頗る弱かつた。その耐しんを安全にする構造法としては第一に堅固な壁を鐵筋コンクリートで造り形が歪む事を防ぎ第二に、柱の強度を垂直から來る荷重のみならず水平に來るしん動にも其の強さを保つ樣に仕組めば決して危險な事はない。東京會館や郵船等の建物が皆二、三階が強くやられて居る事は數層の荷重に耐えぬ組合せをやつたからである。

震災 被害の概況

東京市

東京市調査課で精密に調査した全市の燒失家屋戶數は、四十一萬一千三十五戶で燒失町內に住居してゐた人口(生死に關係なし)は百五十四萬七千三百五十一人である其內譯は左の如し

區別	燒失戶數	燒失戶內住居者
麴町	二、七九二戶	一二、五六〇人
神田	四五、九五二	一六二、九八九
日本橋	二六、〇七七	一五二、三三六
京橋	五〇、七四九	一五八、四八〇
芝	一六、二七八	七二、四二九
赤坂	三、八五一	一六、七八七
四谷	一、六〇四	六、四九四
小石川	一、三六五	四、四三二
本鄉	八、七九〇	三〇、〇三五
下谷	四八、〇七〇	一七二、九八六
淺草	八一、八七二	二八四、二九八
本所	七四、五八八	二七七、四五九
深川	四九、〇四七	一九七、〇七八
合計	四一一、〇三五	一、五四七、三五一

燒失前の調査に比すると戶數は六割四分減となつてゐる

災害後の人口

(十一月一日現在) しんさい救護事務局調査

區名	しんさい前人口	しんさい人口	避難者	現在人口
麴町	六三、八一七	一二、五六〇	三八、〇四七	八九、三〇四
神田	一六七、〇四六	一五七、一四九	二〇、〇〇〇	二九、八五七
日本橋	一五三、一九二	一五三、一九二	二五、〇〇〇	二五、〇〇〇
京橋	一六〇、七五一	一五九、八九〇	三〇、〇〇〇	三〇、八六一
芝	一八四、五一七	七二、四二九	五三、三一一	一九九、三九九
麻布	九七、三五六	―	三八、九一七	一三六、二七三
赤坂	七〇、〇三三	一六、七八七	一八、〇〇〇	七一、二四六
四谷	八五、三七六	六、四九四	三三、六三七	一一二、五一九
牛込	一三八、二三一	―	七三、八二九	一二二、〇六〇
小石川	一七八、四八一	四、四三二	九五、六九〇	二六九、七三九
本鄉	一五一、四九九	三〇、〇三五	八八、四六八	二〇九、九三二
下谷	二一八、六五三	一七一、九八六	七五、四二七	一二二、〇九四
淺草	二九四、一四六	二九四、一四六	一五、〇〇〇	一五、〇〇〇
本所	二九六、九〇九	二九六、九〇九	二七、〇〇〇	二七、〇〇〇
深川	二〇五、二二〇	二〇五、二二〇	三五、〇〇〇	三五、〇〇〇
合計	二、四九九、二二七	一、五八一、二二九	七六七、三二六	一、六八五、三二四

(備考)避難者數は市內に在る者の數にて近郊避難歸鄉の推定數は八一三、九〇三である

東京燒失面積（單位方里）

陸地測量部調査

區名	全面積	燒失面積	不燒失面積	燒失步合
麹町區	〇、五二九〇	〇、一一七四	〇、四一一六	〇、二二
神田區	〇、一九九三	〇、一八七一	〇、〇一二二	〇、九四
日本橋區	〇、一九二二	〇、一九二二	—	一、〇〇
京橋區	〇、二九四七	〇、二五三二	〇、〇四一五	〇、八六
芝區	〇、六〇八八	〇、一四五〇	〇、四六三八	〇、二四
赤坂區	〇、二七四〇	〇、〇一九八	〇、二五四二	〇、〇七
麻布區	〇、二五七五	〇、〇〇〇一	〇、二五七四	〇、〇〇
四谷區	〇、一七九七	〇、〇〇三九	〇、一七五八	〇、〇〇
牛込區	〇、三三七九	〇、〇〇〇二	〇、三三七七	〇、〇〇
小石川區	〇、四二一一	〇、〇一七二	〇、四〇三九	〇、〇四
本郷區	〇、三一三〇	〇、〇五五二	〇、二五七八	〇、一八
下谷區	〇、三二七一	〇、一五六〇	〇、一七一一	〇、四八
淺草區	〇、三一一七	〇、二九九一	〇、〇一二六	〇、九六
本所區	〇、三九四〇	〇、三七二四	〇、〇二〇六	〇、九五
深川區	〇、五〇五八	〇、四三七七	〇、〇七八一	〇、八五
計	五、一四五八	二、二四七五	二、八九八三	〇、四四

（備考）本面積中には隅田川及び新宿御苑に屬する面積は含有せず

燒失町名を列記すれば左の通り

【神田】全燒

【日本橋】全燒

【本所】全燒

【淺草】觀音堂を除き全燒

【深川】越中島町、古石場町の一部、埋立地を除き全燒

【京橋】濱離宮、月島通十二丁目の大部を殘し全燒

【芝】芝公園、芝公園地の一部、芝浦町、南濱町、新芝町、金杉河岸、北金杉河岸、新門前河岸、新堀河岸、今里町三光町、猿町、丹後町、臺町、君塚町白金志田町、三田四國町、三田同朋町三田功運町、三田臺町、三田臺裏町、三田小山町、三田綱町、三田豊岡町、三田松坂町、三田南寺町、同北寺町、老增町、三田高輪南町、同北町、同臺町、西臺の大部、本芝町、本芝材木町本芝下町、本芝入横町、下高輪通新町二本榎本町、同西町、二本榎、赤羽町伊皿子町、横新町、松本町、田町、新門前町、車町、新堀町の大半、西應寺金杉四丁目全部、三丁目半町、あと安全

【本郷】本郷五丁目、金助町、春木町、元町、東竹町、西竹町、湯島新花町、同三組町、同天神町、同梅園町、同朋町、切道町、切通坂町、妻戀町、帝國大學の大部分をやきあと安全

【下谷】茅町、上野公園、上野櫻木町天王寺町、同坂町、同初音町、同眞島町、同三崎町、同上三崎南の一部、同上三崎北町、谷中を殘しあと全燒

【麹町】祝田町、寶田町、元千代田町大手町一丁目、元衞町、竹平町、永樂一丁目一部、八重洲町、內幸二丁目、一部、有樂三丁目一部、內山下一丁目一部、霞關、裏霞關、西日比谷町、外梅田町、三年町、永田町、飯田一二丁目、麹町九丁目一部及十丁目紀尾井町の大部、集町、平河五六丁目半分、富士見町二丁目、元平河町、下二番町大半三番町一部、四番町、下六番町、日比谷公園を殘しあと全燒（宮城は一部やく）

【麻布】我善坊の一部、仲之町一部谷町一部、市兵衞町の大半をやきあと安全

【赤坂】赤本坂町、仲之町、表町、傳馬町、一木町、丹後町、氷川町、臺町新坂町、檜町、青山南町、同北町、同三筋町、六軒町、權田原町、高樹町、福吉町の大部、新町（四五丁目）田町（二丁目より七丁目迄）殘し他は全燒

【小石川】砲兵工廠、諏訪町、新諏訪町、大和町、仲町、江戸川の大半をやきあと安全

【四谷】北裏町一二丁目（新宿遊廓地）を除く外全部安全

【牛込】市ヶ谷本村町、士官學校をやきあと全部安全

燒失の建物

【麹町區】內務省、大藏省、文部省、佛國大使館、印刷局、會計檢查院、警察講習所、警視廳、專賣局、特許局、麹町署、日比谷署、帝室林野管理局、東京毎日新聞社、電氣局、中央郵便局東京電燈會社、中央電話局、帝國劇場有樂座、高田商會、松本樓、富士見樓日比谷大神宮、飯田町停車場、國學院大學、日本齒科醫專、麹町女學校、二松學舍、上六中井家、三井家、東郷、伊井家

【神田區】二六新聞社、松屋呉服店、東京瓦斯會社、商科大學、東京齒科醫專、中央、明治、日本專修、各大學、開成中學、東京商工中學、佛英高女、女子職業、淡路、小川、神龍、今川、千櫻、芳林、橋本、和泉、雲洋、南山、西小川、錬成、各小學校、杏雲堂病院阿久津病院、濱田病院、金杉病院、井上眼科病院、神田劇場、入道館、外に寄席五、神田キネマ外三館、大日本石油、萬世橋驛、神田警察署、神田區役所、神田電話分局、明治會館、青年會館、ニコライ會堂、救世軍本營、馬手旅館外四、神田明神

【日本橋區】日本銀行、村井銀行、あかぢ銀行、東海銀行、第百銀行、第一銀行、第三銀行、安田銀行、川崎銀行株式取引所、米穀取引所、三越呉服店三井合名會社、博文館、西川蒲團店、伴傳商店、丸善會社、山下汽船、大倉堂書店、國分商會、小西漆器店、三共製藥、淺沼商店、明治座、水天館、外二福井樓、寄席鈴本、日本橋倶樂部、東京毎夕新聞社、中外商業新報社、日本橋高女、日本橋、箱崎、阪本、城東常盤、東華、重恩、濱町、千代田、有馬各高等小學校、中央電信局、日本橋區役所、久松警察署、堀留警察署、新場橋警察署、濱松病院、矢の倉病院、日本橋病院、外十七箇所

【芝區】高輪御殿、和蘭公使館、汐止驛、新橋驛、赤十字社、政友會、鐵道大臣官邸、芝區役所、愛宕警察署、第二消防署、細菌檢查所、芝局、電話分局、幸橋税務署、遞信官吏練習所、慈惠大學、攻玉社中學、正則中學、愛宕、南佐久間、西佐久間、櫻川、芝浦神明、巴、啓蒙、東海、各高等小學校鐵道病院外八箇所、芝神明社外六神社、青松寺外四十七寺院、芝浦製作所東洋印刷、濱町電氣、化學工場外十五工場、芝銀行外六銀行、琴平亭外寄席五箇所、大門館、信濃旅館、外二箇所、池洲別館、堤ビルヂング、馬越泰平、田中平八、服部金太郎、望月圭介、横山勝太郎、野村府會議員、若林府會議長諸氏邸宅

【京橋區】第一生命、双互保險、星製藥、千代田生命、築地活版、十五銀行東洋汽船、高島屋呉服店、天賞堂、服部時計店、石川島造船所、時事、朝日讀賣、やまと、國民、中央、萬朝報、各新聞社、西本願寺、精養軒、中央旅館松本樓、歌舞伎座、新富座外四、金澤亭外寄席二箇所、農商務省、遞信省海軍省、造兵廠、月島警察署、北紺屋警察署、築地警察署、立教中學、工藝學校、京橋高等、月島、月島第二、佃島、京橋、啓蒙、實田、養明、越前堀鐵ばう洲、南槇町、明石、文海、築地靈岸島、各小學校、東京施療病院、聖路加病院、林病院外十六病院

【赤坂區】米國大使館、大倉集古館、內閣記錄編纂所、大倉商業、大倉喜八郎邸

【四谷區】新宿市電車倉庫、武藏野活動寫眞館

【小石川區】はう兵工廠

【本郷區】帝國大學の一部、女子高等師範、岡野敬次郎、武井守正、松平賴壽伯、入澤達吉、高田愼藏、上杉伯、赤司鷹一郎諸氏邸、本郷座、靈雲寺外二寺院

【下谷區】岩倉鐵道學校、上野高等女學校、大正小學校外九校、市村座、上野驛、秋葉原小學校、阪本小學校、上野警察署

【淺草區】高等工業學校、成華女學校外十四校、樂山堂病院外七病院、藏前煙草專賣局、鳥越神社外十二社、東本願寺外三寺院、象潟署外三警察署、第五消防署、宮戸座、中央劇場、開盛座、花屋敷外三十三座、吉原遊廓、小松侯、立花伯、松平伯、柳澤伯、大久保子、嵯峨侯

【本所區】相生署、原庭署、太平署、本所區役所、陸軍被服廠、安田別邸、酒井伯、回向院、國枝館、相生館外四箇所、船澤町市電車庫、江東病院、第二中學校、中央小學校外十一校、職工學校、神谷燒酎製造工場、東京凸版工場、三田土護謨、大日本自轉車、富士瓦斯紡績、精工舍、日本汽車製造會社宮田自轉車商店

【深川區】西平野署、洲崎警察署、扇橋署、深川區役所、第六消防署、岩崎別邸、洲崎遊廓、洲崎病院、深川八幡、同明神、商船學校、八名川小學校外九校、淺野セメント、同スレート會社、東京製鋼所、日本紡績、深川東京市消毒所、安田製釘所、龍紋製氷所

東京及各災害地の倒潰燒失死者數

九月十四日戒嚴司令部及び臨時事務局から發表された最も正確なる數に依れば

地名	倒潰又は燒失	死亡
東京市	四一一、〇〇〇	八四、一一四
川崎	五〇〇	一八〇
鶴見	三〇	一〇
神奈川市	四〇	一二
横濱市	二三、〇〇〇	二四、〇〇〇
横須賀市	二、〇〇〇	五〇〇
浦賀	一、五〇〇	二〇〇
三崎	七〇〇	六〇
葉山	一、一〇〇	二〇
鎌倉	六、三〇〇	五〇〇
戸塚	一、七〇〇	六〇
藤澤	七、〇〇〇	三六〇
腰越	三一〇	七〇
大磯	一、九〇〇	二三〇
伊勢原	二、八〇〇	一八〇
松田	二、〇〇〇	二〇〇
小田原	五〇、〇〇〇	二三〇
熱海	五五〇	五〇
伊東	一、三〇〇	六〇
八王子	二〇	四
御殿場	二、五〇〇	五〇〇

なほ腰越、茅ケ崎、平塚、熱海、箱根湯本も殆ど全滅し眞鶴、小田原江の島は全滅、二宮と下鶴間の道路は大龜裂を生じて陷沒してゐる、倘大島相模川間の海底は深く低下し代りに三浦半島沖合の海底は隆起し海嘯に襲はれた箇所は鎌倉葉山間の海岸に過ぎない、一方房總方面は南朝夷が全滅したほかに

地名	倒潰家屋	死亡
本郷	二〇〇	五〇
船形	一、〇〇〇	一〇〇
那古	八五〇	一〇〇
北條	一、五〇〇	二〇〇
館山	一、五〇〇	二〇〇
南朝夷	二、五〇〇	一、二五〇
勝浦	二三〇	一
木更津	三、〇〇〇	一〇〇
市川	一五〇	二〇
千葉	一、四〇〇	二三
東金	六〇	〇
成田	二〇	〇
佐原	二〇	二

で九十九里ヶ濱の被害は僅少だとの事である

交通機關

震災と同時に本元の遞信省を始め各市内郵便電話局は大半燒失し、電信電話線は切斷して全部不通になり、何時開通するとも判らなかつたが、當局が大努力の末二日漸く無線電信を以て各地に連絡する事を得た。九月五日に至つて漸く、東京より大阪迄二回線、新潟一回線、神戸一回線、金澤一回線、名古屋一回線は開通し至急電報のみ取扱つたが越えて六日一般りさい者の私報(三十字以内)は無料とし、新聞電報も中央郵便局で受付ける事になつたので一時にりさい民が同局に殺到した爲に大混雜を來たしたが同電報は連絡機關に余裕のある限り電信器により其の他は飛行機、鐵道、及汽船にて大阪、名古屋、清水港、仙臺迄託送した上それ〳〵電信器で發送されたのである。又海軍省の船橋無線電信局、陸軍の中野無線電信隊も大に活躍して通信に當つたが尚中野の傳書鳩も今度は非常な努力で通信に從事した。一日に千葉の砲兵學校將校携帶の傳書鳩が帝都の震害火煙中を突破して四街道の本校に飛翔通信したので初めて東京の大火災を知り得た次第である。其後遠く仙臺にまで飛んで通信をした。實に今回の殊勳者と云ふべきである。

電話も市内は不通であるが六日には大阪、名古屋、新潟、長野、長岡、高崎に通じて非常火急を要するものに限り使用を許された。郵便については遞信省は一新例を開いて料金先拂とし「り災通信」と肩書したるものは切手無貼付のまゝ受付ける事とし又自働車を以て行動郵便局を設置し、一日一回最もり災者の多く集まれる芝、日比谷、淺草、上野方面に移動して便宜を計つた。

市電郊外線及び關東地方の線路の破損の爲列車の運轉系統は全然途絶したので、ひ難者の爲鐵道省は急遽來援したる千葉鐵道大隊の助力を得て鋭意線路の復急に從事し五日午前六時迄に開通したものは左の通りである。

東海道線 品川鶴見間開通御殿場以西は全部開通

横須賀線、熱海線、横濱線は全部不通

中央線 飯田町與瀬間開通、與瀬鳥澤間不通鳥澤以西全部開通

山手線 品川、田端、池袋、赤羽間開通(汽車運轉)

東北本線 日暮里以北開通し列車は田端から運轉した

信越線 日暮里より運轉

常盤線 同前

總武線 龜戸より午前六時より午後十一時迄一時間毎に發車

東武鐵道 淺草粕壁其他は開通東上線支障なし、駿豆鐵道線不通

右に依つて罹さい者は無賃乘車の取扱を受けて歸國した。又鐵道省關釜連絡船景福丸(定員二千五百名)高麗丸(定員千五百名)二隻をして毎日午後二時出帆芝浦清水港間を交互に往復して江尻驛で東海道線と連絡し乘船券を芝の田町驛で發行して無賃輸送を行つた。

陸海軍の助力

初め大しんの起るや遞信省所屬の通信機關は悉く破壞し、電力を待るの途なく非常に困難を感じたが、關西地方へのしんさい第一信は海軍無線電信に依つて報ぜられた。割合に被害の少なかつた船橋海軍無線電信局より紀州潮岬無線局に報ぜられ之れが大阪に報ぜられたのが第一信であつた。東北方面へは大湊要港部に報ぜられた。此結果互に軍艦の無線電信を以て連絡し一面糧食、ひ難民の輸送に全力を注ぎ、軍艦神威は四日市から、常備艦隊は九州方面から、春日艦は大湊から夫々白米を塔載して關東地方に急行し、軍艦周防以下七隻は神戸、下關、大阪にある政府の在米五十七八萬石を東京に廻航し、旅順に集合中の聯合艦隊は米を滿載して二十節の急速力で輸送して來た。一方ひ難民の爲に、東京、横濱、横須賀、清水港、神戸、大阪の間を急航し驅ちく艇隊は毎日午前八時、午後一時の二回芝浦を出航して横濱、横須賀間を周航し、八日から不取敢千人宛芝浦清水間の公衆輸送を開始し毎日午前十一時芝浦出帆である。

九月八日 淺間 九日 磐手

十日 八雲 十一日 津間

十二日 磐手 十三日 八雲

航空隊はてい察又は遞送に從事した。

陸軍の活動の方面について云へば大しん當日の大火さいに伴ひ、陸軍省は近衞及び第一師團の工兵に命じて延燒の憂ある大建築を續々爆破せしめ、一方所澤の飛行隊に命じて一日二回名古屋、大阪方面と連絡を保たしめ、鐵道隊及び電信隊をして線路の修繕及び軍用電信の架設を行はしめた。此際特に働いたのは實に傳書鳩であつて遠く仙臺の第二師團と交通して連日火煙と風雨とを冒して活動した。又上野外各所に照明班を組織して大探照燈を照してひ難するものに大なる便宜を與へた。市内の各橋渠は始んど全部燒失したので赤羽の工兵隊の活動となり永代、ウマヤ橋、吾妻橋(七日)新大橋(六日)兩國橋、御茶の水(九日)神田橋(九日)開通し、六郷川の六郷橋は九日午前中に工事完成して漸く自動車が通じて横濱との交通も自由となり、横濱市内の道路は工兵第十五大隊が極力修理を急いだので九日漸く自動車が通る樣になつた。無線電信隊は急遽中野より來京しテレフォンケン式の無線電信器を以て移動電信局を開設し軍用電信及び火急を用する官公報を取扱ひ、金澤無線電信隊とも連絡して通信の便宜を計つた。

日本郵船會社にあつてはしん災勃發と同時に折柄長崎港に碇泊中であつた上海航路の長崎丸に急電を發して横濱に呼び寄せて横濱神戸間の聯絡を計り次いで姉妹船上海丸と其快速力を利用してひ難民輸送に當り、備後丸、石狩丸とそれ〳〵食料を積んで芝浦に入港直ちに輸送任務についたが尚此外にまらつか丸、神隆丸、大連丸、大榮丸、鳥羽丸、阿蘇、山城、小樽、筑後、箱崎、日光、熊野の諸隻を以てさい害專用船として就役さして居る。

大阪商船會社にあつてはシカゴ丸は六日午前十時前芝浦を發し横濱經由大阪に向ひ、八日からは毎日又は隅田に芝浦大阪間を往復し第二大連丸は六日より毎日東京横濱間を連絡し何れも無賃塔載しバリー丸は横濱に碇泊して醫療救恤した。此外しかご丸、扇海丸、はるぴん丸、あんです丸、北京丸、長州丸、銀山丸、はばな丸、ろんどん丸あるたい丸、大義丸等が輸送に從事し葛原商會の冷藏船海光丸、幸光丸は冷藏魚肉を滿載して急航した。

政府の措置

伯爵山本權兵衞氏が築地水交社に閉ぢ籠つて内閣組織に腐心中大しんが勃發し、次いで大火災が起つたが此混雜と余燼尚盛んなる九月二日午後四時より各新大臣は永田町の官邸に參集し内閣の方針に關して大体の協議を遂げて同夜七時宮中に參內し攝政宮には庭前の四阿屋に御野立あらせられ、同七時半親任式を行はせられた。斯くて山本新内閣匆忙として成立したのである。

總理大臣 山本權兵衞

外務大臣 首相兼任

内務大臣 後藤新平

大藏大臣 井上準之助

司法大臣 農相兼任

文部大臣 遞相兼任

陸軍大臣 田中義一

海軍大臣 財部彪

農商務大臣 田健次郎

遞信大臣 犬養毅

鐵道大臣 山之内一次

次いで六日午後三 赤坂離宮に於いて左の如く親任式が擧行された。

司法大臣 平沼騏一郎

文部大臣 岡野敬次郎

尚當日永田町の首相官邸に於いて左の如く捧授式が行はれた。

任大審院長 横田秀雄

任臺灣總督 内田嘉吉

日本銀行總裁には前藏相が任命されし後に外務大臣は伊集院彦吉氏が任ぜられた。

政府はしん災と同時に首相官邸に於いて臨時閣議を開き其結果救助の爲金九百五十萬圓を支出し又臨時しん災救護事務局の官制發布及び緊急徵發令公布の御裁下を仰ぎ内田前臨時首相を總裁に、水野前内相を副總裁とし事務局の中に總務、警務、食糧、交通運輸、衞生衣糧、飲料水、情報の各部を置いて二日午後三時より第一回會合を開き爾後毎日午前九時より開合して事に當り毎日しんさい彙報を發行した。

又四日畏くも我皇室に於かせられては大しん災を痛く御軫念あらせられ、恐れ多くも御内帑金一千萬圓を御下賜あらせられ尚山本首相を經て羅災民に對し左の優渥なる御沙汰書を賜はつた

御沙汰

今回稀有ノ大地震東京及近縣ヲ襲ヒ之ニ加フルニ大火ヲ以テシ其慘害甚ダ大ナルハ實ニ國家生民ノ不幸ナリ予ハ其實狀ヲ見聞シテ日夜憂戚シ殊ニ羅災者ノ境遇ニ對シテハ、心深ク之ヲ傷ム茲ニ内帑ヲ頒チテ其痛苦ヲ慰メントス官民夫レ協力シテ適宜應急ノ處置ヲ爲シ以テ遺憾無キヲ期セヨ

山本首相は恐懼措く能はず四日内閣告諭第一號を以て左の告諭を發表した

東京及近縣に亘れる今次のしんさいに伴ふに大火災を以てし慘害の甚だしき言語に絶し、日常の設備蕩然一空に歸し焦眉の措置最も急を要す

政府はまづ秩序を保ち安定を得しむるに努め食れう物資の補給建築材料の準備其他應急一般の施設を爲すに於て最善の努力を盡しつゝあり

攝政殿下深く御憂慮あらせられ親しく優渥なる御沙汰を賜ひ內帑の資を發せらるゝ旨を傳へられ適宜應急處置を爲し遺憾なきを望ませらる生民の休戚に就き御しん念あらせて深き同胞を倶に本大臣の恐懼感激に堪へざる所なり茲に聖旨を奉じて應急の處置を執り復舊を圖るは政府の全力を擧げて事に從ふ處なるも亦擧國一致の奮起協力に待つこと切なり希はりさい者は固より一般の國民皆能く感旨の渥きを奉體し官民戮力を以て仁慈なる御沙汰の貫徹を期し各自相激勵して適應の處置を誤らず此異常の災害に對して絶大の努力を致さ

むことを是本大臣の切望に絶えざる所なり

大正十二年九月四日

內閣總理大臣　山本權兵衛

然るに一日の夜より一部不逞鮮人の暴動がありその他市內の混雜を極めたので遂に帝都は戒嚴令を布かれたが五日內閣告示第二號を以て山本首相は左の告諭を發した。

今次のしん災に乘じ一部不逞鮮人の妄動ありとして鮮人に對し頗る不快の感をいだくものありと聞く鮮人の所爲若し不穩に亘るに於いては速かに取締の軍隊または警察官に通告して其處置にまつべきものなるに民衆自ら隈りに鮮人に迫害を加ふるが如き事はもとより日鮮同化の根本主義に背戾するのみならず又諸外國に報ぜられて決して好ましき事にあらず事は唐突にして困難なる事態に際會したるに基因すと認めらるゝも刻下の非常時に當たりよく平素靜を失はず愼重前後の措置を誤らず以てわが國民の節制と平和の精神を發揮せむ事は本大臣のこの際特に望む所にして民衆各自の切に自重を求むる次第なり

大正十二年九月五日

內閣總理大臣伯爵　山本權兵衛

尚福田關東戒嚴司令官も同樣の告諭を出した。

六日午後四時緊急樞府會議を開き各顧問官、各大臣出席し井上藏相、田農相、山內司法次官等から說明をなし滿場一致の賛成を得て左の三大緊急勅令を發布した。

三大緊急勅令 公布

治安維持令

朕玆に緊急の必要ありと認め樞密顧問の諮詢を經て帝國憲法第八條第一項に依り治安維持の爲めにする罰則に關する件を裁下し之を公布せしむ

御名御璽　攝政名

內閣總理大臣、各省大臣

出版、通信其の他何等の方法を以てするを問はず暴行騷擾其の他生命、身體若は財產に危害を及ぼすべき犯罪を煽動し、安寧秩序を紊亂するの目的を以て治安を害する事項を流布し又は人心を惑亂するの目的を以て流言浮說を爲したる者は十年以下の懲役若は禁錮又は三千圓以下の罰金に處す

付　則

本令は公布の日より之を施行す

暴利取締令

朕玆に緊急の必要ありと認め樞密顧問の諮詢を經て帝國憲法第八條第一項に依り生活必需品に關する暴利取締の件を裁可しこれを公布せしむ

御名御璽　攝政名

內閣總理大臣、各省大臣

震災に際し暴利を得るの目的を以て生活必需品の買占若は賣惜を爲し又は不當の價格にて其の販賣を爲したる者は三年以下の懲役又は三千圓以下の罰金に處す

前項の生活必需品の品目は命令を以て之を指定す

附　則

本令は公布の日より之を施行す

支拂延期令

朕玆に緊急の必要ありと認め樞密顧問の諮詢を經て帝國憲法第八條第一項に依り私法上の金錢債務の支拂延期及手形等の權利保存行爲の期間延長に關する件を裁可し之を公布せしむ

御名御璽　攝政名

內閣總理大臣、各省大臣

第一條　大正十二年九月一日以前に發生し同日より同年同月卅日迄の間に於て支拂を爲すべき私法上の金錢債務にして、債務者が東京府、神奈川縣、靜岡縣、埼玉縣　千葉縣及しんさいの影響に因り經濟上の不安を生ずる虞ある勅令を以て指定する地區に住所又は營業所を有するものに付ては三十日間其の支拂を延期す但し債務者が其の地區外に他の營業所を有する場合に於て該營業所の取引に關する債務に付ては此の限に在らず

しんさいの影響に因り必要あるときは勅令の定むる所に依り前項の規定は大正十二年十月一日以後に支拂を爲すべき私法上の金錢債務に付之を適用することを得前項の規定中三十日の期間は之を延長することを得

第二條　左に揭ぐる支拂に付ては前條の規定を適用せず

一　國、府、縣其の他の公共團體の債務の支拂

二　給料取勞銀の支拂

三　給料及勞銀の支拂の爲にする銀行預金の支拂

四　前號以外の銀行預金の支拂にして一日百圓以下のもの

第三條　手形其の他之に準ずべき有價證券に關し大正十二年九月一日より同年同月卅日までの間に第一條に規定する地區に於て權利保存の爲に爲すべき行爲は其の行爲を爲すべき時期より卅日內に之を爲すに因りて其の有力を有す

第一條第二條の規定は前項の場合に之を準用す

附　則

本令は公布の日より之を施行す

右の支拂延期(モラトリユーム)に依つて支拂猶豫を爲すと同時に政府は火災保險の契約の八割を負擔し會社に二割を支拂はしめて全額拂戾の道を講ずべしと云ふ議が起つた。天災に依る火さい保險については會社は支拂の必要がないのだが、凄慘極まる今回の大さい害に對する應急策として右の內議があるのだが未だ具体案にはなつて居ないので本誌發表の時迄には何等の發表をも見なかつた。

金融機關に對しては七日午後二時より井上藏相は市來日銀總裁、鈴木鮮銀總裁、池田第百銀行頭取等都下の主なる銀行家を官邸に招じて財界の秩序回復と金融機關復舊について協議し午後四時に散會したが、帝都の再造、商工業復興資金の疎通に關する一策として速に各銀行の業務を再開し之については日本銀行は能ふる限りの應援をなし支拂準備金の貸出も出來得る限り廣く且つ多額になす事としたので八日から三菱、勸業、臺灣、興業、正金の五銀行を初め他の銀行も本支店を通じて開業する事になつた。同時に貯金局保險局は燒失したけれども非常拂を開始し九月三日迄一口三十圓以下の拂出しに應じたが後一口百圓以下を支拂つて急に應ずる事にした。

戒嚴令

政府は九月一日の夜、地しんによる人心の不安と大火さいの混雜に乘じて一部不逞鮮人の來襲を云々するものがあつた。事實意外の方面より火の手の上がるに疑問を抱いて居る中に鮮人拔刀事件突發し加之に社會主義者及び不程鮮人の流言放火等頻々たる所から遂に二日夜帝都戒嚴令を布き參謀總長陸軍大將福田雅太郎を關東戒嚴司令官に任じ、參謀本部を司令部に當て五日步兵第二聯隊(仙臺)工兵第二(仙臺)六日步兵第二聯隊(高田)工兵第十三(高田)及び工兵第九(金澤)等の來援を得て七日より大要左の配置を以て帝都及湘南地方を警戒した。

(東京北半部)　近衛師團の大部分第十三、第十四師團の步兵三聯隊工兵第二、第八大隊、第二、第三、第十三師團の衛生隊。

(東京南半部)　第一師團の大部、第二、第十四師團の步兵三聯隊、工兵第十三大隊、第八、第九、第十四師團の衛生隊。

(神奈川方面)　第一師團の步兵一聯隊、騎兵一聯隊、工兵第十四大隊。

(藤澤方面)　第一師團の步兵一聯隊騎兵一中隊、工兵第十六大隊。

(小田原方面)　第十五師團派遣部隊三嶋重砲兵旅團の一部、工兵第十五大隊、第十五師團救護班。

(中山道方面)　第二師團の步兵一聯隊、近衛騎兵一中隊、外に市川、船橋千葉、佐倉方面は各地殘留部隊を以つて警備し、一方警視廳は無稽の流言をなすものを片ぱしから檢束したので人心漸く平穩に歸した。戒嚴司令部では本部の上空に氣球を揚げて偵察に任じて居る。

帝都の將來

未曾有の大しんさいは可惜過去三百年の文化を一朝にして灰塵に歸せしめた。見渡す限り焦土の巷と化し去れる東京は果して再建せらるゝだらうか。帝都遷都說さへ巷間に傳へらるゝに至つた、商業の中心、金融の中心は或は京坂の地に移るかもしれないが、帝都として政治の中心としての東京は新しい希望を以て此焦土の上に建設せらるべきである。近來の異常なる人口の膨脹に隨つて東京は實に其處置に窮して居たのであるから、大東京の建設に就いては此時ほど適宜にして且つ容易な時はないのである。東京が地しん帶の上に住し過去に幾度かの大地しんに會して居るから帝都として不適當であるむしろ京都、大阪、名古屋等に遷都すべしとの說も唱へられるが、大東京は矢張り此大地に再建せらるゝことゝなつた。既に內務省都市計畫課では七日第一回の打合せ會を開き、再建後の東京は世界の文明都市に於ける最善最美のものを採用して理想的のものたらしめる方針で、先づ住宅地と商業地及工業地が整然區劃さるゝ外、防火、交通、保健の上から大道路大公園主義を全市街に採用する事は云ふ迄もなく、次で燒失した各官省は西日比谷の新議會附近に集中して東京驛西北面のオフィス街と共に政治經濟の中心となり、從つて新橋より日本橋を經て萬世橋驛に達する中央市街が大商業區域となるは自然の形勢であらう。而して取引市場、卸賣市場、魚肉市場が三角中心をなして證券米穀と物資並びに生活必需品の集散地となり夫れ〴〵經濟的及び商業的中心を形作るべく、多年の難問題であつた魚海岸の芝浦移轉や砲兵工廠の郊外移轉も自然解決の機を得たと云つて好い。然して河川交通便利なる隅田對岸地帶即ち本所深川方面は依然工業地として更に新樣式を現出すべく本郷神田が依然敎育地域たり又文化の中心たるは變化があるまい。永田東京市長の語る所によれば、芝浦の築港を永代橋まで延長し、或は新たに運河も必要に應じて造り、宮城を中心として幅五十間の放射形の大道路及び環狀道路を作り大公園を隨所に設けて防火、保健用としてイザと云ふ場合東京市を全滅から防ぐ用意をするし、建築は全て洋風として再建したい希望で此計畫は市民の熱誠なる努力によれば優に五年

後には復活する見込であると云ふ政府に於ても十六日帝都復興審議會を設け山本首相を主班とし着々計畫を進めて急速に復活をはかつて居る。又九月十一日午前十時から東京商業會議所內に大しんさい善後會を開いたが會頭には皇族を奉戴し澁澤子の會長、德川、粕谷兩院議長及び市來日銀總裁等が副會長に決定する筈で憲、政、兩黨からも應援する。斯くして數年ならずして大東京は此由緒ある三百年來の文化の地に輝しい希望を抱いて美しく生れ出づる見込である。

大詔渙發

十二日午後左の大詔渙發された

朕神聖ナル祖宗ノ洪範ヲ紹キ光輝アル國史ノ成跡ニ鑑ミ皇考中興ノ宏謨ヲ繼承シテ肯テ愆ラサラムコトヲ庶幾シ夙夜兢業トシテ治ヲ圖リ幸ニ祖宗ノ神佑ト國民ノ協力トニ頼リ世界空然ノ大戰ニ處シ尚克ク小康ヲ保ツヲ得タリ爰ゾ圖ラム九月一日ノ激震ハ事咄嗟ニ起リ其ノ震動極メテ峻烈ニシテ家屋ノ潰倒男女ノ慘死幾萬ナルヲ知ラス剩へ火災四方ニ起リテ炎焰天ニ沖リ京濱ソノ他ノ市邑一夜ニシテ焦土ト化ス此ノ間交通機關杜絕シ爲メニ流言蜚語盛ニ傳ハリ人心恟々トテシ倍々其ノ慘害ヲ大ナラシム之ヲ安政當時ノ震災ニ較フレハ寧ロ凄慘ナルヲ想起セシム

朕深ク自ラ戒愼シテ已マサルモ惟フニ天災地變ハ人力ヲ以テ豫防シ難ク只速カニ人事ヲ盡シテ民心ヲ安定スルノ一途アルノミ凡ソ非常ノ秋ニ際シテ非常ノ果斷ナカルヘカラス若シ夫レ平時ノ條規ニ膠柱シテ活用スルコトヲ悟ラス緩急其ノ宜ヲ失シテ前後ヲ誤リ或ハ個人若クハ一社會ノ利益保障ノ爲ニ多衆災民ノ安固ヲ脅カスカ如キコトアラハ人心動搖シテ底止スル處ヲ知ラス朕深ク之ヲ憂慮シ既ニ在朝有司ニ命シ臨機救濟ノ道ヲ講セシメ先ス焦眉ノ急ヲ極ウテ以テ惠撫慈養ノ實ヲ擧ケント欲ス

抑モ東京ハ帝國ノ首都ニシテ政治經濟ノ樞軸トナリ國民文化ノ源泉トナリテ民衆一般ノ膽仰スル所ナリ一朝不慮ノ災害ニ罹リテ今ヤ其舊形ヲ留メスト雖依然トシテ我國都タルノ位置ヲ失ハス是ヲ以テ其ノ善後策ハ獨リ舊態ヲ回復スルニ止マラス進ンテ將來ノ發展ヲ圖リ以テ巷衢ノ面目ヲ新ニセサルヘカラス惟フニ我忠良ナル國民ハ義勇奉公朕ト共ニ其ノ慶ニ賴ラムコトヲ切望スヘシ之ヲ慮リテ朕ハ宰臣ニ命シ速ニ特殊ノ機關ヲ設定シテ帝都復興ノ事ヲ審議調查セシメ其ノ成案ハ或ハ之ヲ至高顧問ノ府ニ諮ヒ或ハ之ヲ立法ノ府ニ謀リ籌畫經營萬遺算ナキヲ期セムトス在朝有司能ク朕カ心ヲ心トシ迅ニ災民救護ニ從事シ嚴ニ流言ヲ禁遏シ民心ヲ安定シ一般國民亦能ク政府ノ施設ヲ翼ケテ奉公ノ誠悃ヲ致シ以テ興國ノ基ヲ固ムヘシ朕萬古無比ノ天殄ニ際會シテ恤民ノ心愈々切ニ寢食爲ニ安カラス爾臣民其レ克ク朕カ意ヲ體セヨ

御名御璽　攝政名

大正十二年九月十二日

各大臣副署

震災雜叢

▲各國の同情

今回の地しんの大きかつた事は空前の事であつて八千哩を隔つるオーストリアのウィンナに於いて四時間にわたり地しん計に感應し、又ロシアのペトログラードに於いても地しん計に現はれた程であつたから一度無線電信に依つて大しん害が報ぜらるゝや實に全世界の同情が集つた。

●**米國**　東京の赤坂のアメリカ大使館は全燒の厄にかゝつて居るにも拘はらず大使サイラス、ウッヅ氏は急電を發して市民の救護を本國に報じた結果米大統領クーリッヂ氏は六日午後駐米埴原大使を白亞館に引見して日本今回のしん災は未曾有の事變であつて日本の皇室を始め國民に對し哀心同情に堪へず取急ぎ及ぶ限り救助の道を講じ、同時に米國民に對して救濟勸告の布告を發する旨を告げ更に大統領はアメリカ赤十字社を通じて日本に對し出來得る限りの助力を盡さん事を希望する旨の布告を發した。米國赤十字社は直ちに各州支部に命じて『一分早ければ一人余計に助かる』と云ふ巧妙な標語の下に義捐金を募集したが忽ちの中に五百萬弗を突破し、紐育のみにても百萬弗以上に達した。此內にはロックフェラー一族よりの二十萬弗も含まれて居る。又米國絹業協會は僅か半時間の內て十五萬弗を募集した。又東洋方面にあつた米國驅逐艦隊はしん災救援の爲五日に横濱に急航し、在マニラの陸軍運送船メイグラ號メリット號は食料テント寢具等を積載し、ブラックホーク號は米百萬ポンド豆五十萬ポンド其他食料を積みチンタヲ出帆ビーコス號はマニラより米、鹽、藥品毛布及陸軍醫員赤十字社員を載せてアヴァレント號は漢口にて米、麥粉其他食料品五千噸を載せて横濱に急航した又、アジア艦隊司令官は旗艦ヒユロン號に搭乘して救援の爲來濱且つ同隊に屬する軍艦數雙は日本近海に出動して無線電信連絡を計つた。

●**支那**　支那政府は災害を聞くや四日付總統令を發して財務部は既に二百萬元を日本政府に送致したが、此際地方官は紳商等と協力して出來得る限り義捐金の募集をなすべしと命令し同時に赤十字社を派遣して醫藥糧食等を給與する事を勸告したが六日年來の防穀令を解いて米八十萬石を急送し、青島より牛肉、佃煮、鷄卵、麥粉、素麵漬物等を急送した。上海支那商業會議所は白米十萬石、醫藥品を輸送し、上海市參事會(一萬両)支那協會(一萬両)支那商業會議所(一萬一千両)曹混以下直隷派の有力者の義捐金二萬元段祺瑞以下安福派有力者義けん金三萬元を載んで上海招商局滊船新明丸日清滊船大智丸、長沙丸は横濱に入港した。又宣統帝は時下數十萬圓の愛藏骨董品を送つて來た。

●**濠洲の同情**　總督フォスター卿は救濟費一萬ポンド(十萬圓)を支出し更に追加五萬ポンド(五十萬圓)を義捐した外必需品をを積んで第一船が急航して來た。

●**英國の同情**　しん災の報一度英京に達するや上下の同情翕然として起り英國皇帝へイ下より三十五萬圓下賜せられ次でロンドン市長の義捐金募集に應ずるものデーリーメール新聞社の五萬圓を筆頭とし九日迄に七十萬圓に達し又皇后陛下は義けん金中に二千五百圓下賜された又救世軍本營ブース大將より三萬圓を取あへず送來したが尚二千萬圓を募集中である。英國東洋艦隊は支那各地に於いて食料其他のものを購入して全かん隊横濱に入港した。

●**加奈陀**　英領コロンビヤ政府は材木商組合と協力して多量の材木と食糧とを寄贈して來た。

●**南アフリカ**　南阿聯邦政府は最近の便船に託して玉蜀黍五千袋を送り

●**比島**　では六日迄に四萬ペソ(八萬圓)の義捐金を募つたが尚百萬ペソ(二百萬圓)を募集せんとしてヒリッピン人は大努力をして居る。救難船ベコス號は棺百個食料品醫藥を積んでカヴテ港を出帆したが其節仲仕二名が不幸にも横死した程の努力振りである。

●**佛國**　巴里では刻々無線電信及び海底電信で報じて來る眞相に驚愕惜く能はず直ちに義捐金募集に着手したが佛國政府は發令して七日一日劇場、活動寫眞に對し休場を命じ半旗を揚げて日本罹さいに對して痛悼の意を表した

●**白耳義**　皇帝陛下はブラッセル駐在日本大使に對ししんさい慰問の意を表せられ日本罹さい救助の爲政府後援の下に義捐金募集に着手した。

●**ロシア**　勞農共和國委員長チチエリン氏は同國を代表して此度の大地しんにつき日本政府及び人民に對して深甚なる同情の意を表したが尚ウラジヲにある極東委員會に對し日本の罹さい民援助の爲全能力を盡して救濟方法を講ずる樣訓令をした。七日五萬弗の義けん金、十五萬フードの食料及び醫品を積んだ滊船は横濱に向ひ同時に全露に對し義けん金を募集し始めた。がレーニン號も救援の爲急こうして來たが赤化宣傳の爲で追ひ返へされた。

●**ハンガリー**　外務大臣は左の電報を我　天皇陛下に捧げて深甚なる同情を寄せた。

陛下の國土が遭遇せられたる恐るべく悲しむべき報道に接し深く驚愕せり此慘事に當りハンガリー國民全體と共に斯くの如き損害を蒙りし日本國民に對する最も深甚なる同情の念を倉皇としてヘイ下に捧呈す。

●**フィンランド**　首都ヘルシンクフォルスでは日本大しんさい遭難者救助の爲義けん金の募集に着手した。

●**ルーマニヤ**　同國皇帝ヘイ下より天皇ヘイ下に對し深厚なる御見舞の電報あり又同政府からも弔意を表して來たが同國皇太子殿下より左の電報を捧呈された。

貴國を襲ひたる大兇事の報道に接し驚愕惜く能はず予の深甚なる同情の言を受納せられん事を希ふ

●エジプト　アレキサンドリア市のビル商會は五千圓の義捐金を送附して來た。

●イタリー　イタリーは日本と同じく地しん國で地しんに伴ふさん苦は從來からも屢嘗めて居り先年のメシーナの大地しん等の事もあるから同情の心殊に深く、今ゴック嶋問題で希臘と開戰するかどうかと云ふ時なるにも拘はらず去る十日全國弔旗を掲げて歌舞音曲を停止して遙かに弔意を表した。

●メキシコ　にあつては日本に對する同情其極に達し擧國一致日本救濟に盡し勞働者小學生全般に渉つて義金を募集し其金を日本公使館に托した。

●チリー　同國は南米の地しん國で屢々地しんにおびやかされる關係から、大統領を初め國民一般は非常な哀悼の意を表し且つ先年同國のしんさい當時日本より救助船を急派した事を思ふて今更に感謝の念を起し、大統領から早速攝政宮殿下に對し御見舞の電報を捧呈し且つ目下同國が國內の禍の方が大きくて何等救濟方法のとれないのが殘念だと云つて來た。

●印度　ボンベイの實業家サーバシヨタム、ダス、ダシカーダス氏（前ボンベイ市長）は早速義金募集に着手したが印度總督も全印度に激を飛ばし印度副王發起の日本救恤資金募集の機關を設置し自ら五千包の寄附をなし印度の銀行各地支店に托して集めて居る

●アイルランド　は卒先して殆ど米國と同じ早さで哀悼の電報を送つて來た。

日本各地方の同情

◉大阪市　今回の大しんさいに第一に非常な同情を寄せたものは實に大阪市であつた。紀州潮岬無線電信局よりの第一信に初めて東京のさい害を知つた大阪市は緊急參事會を開いて不取敢金貳拾萬圓を急送したが八日更に八拾萬圓を追加して救助に宛て一面直ちに義えん金募集に着手し住友男（貳百五拾萬圓）鴻池男（五拾萬圓）藤田男（百萬圓）大阪市取扱の分（五拾五萬圓）大阪各新聞者扱（百六拾八萬圓）累計二千二百六拾八萬圓尙白米其他物品の見積り金參拾五萬八千六百七拾五圓余を得た。又大阪商船のロンドン丸は地しんの折はからずも横濱港に淀泊中であつたので有ゆる困難を排して救助につとめ日本人五三八名支那人五三七名及びペルー人一名を乘せて四日午前〇時横濱出帆、六日午前六時築港に入港した次いてアラスカ丸は拾日午前七時七三二名、辰馬滊船の綾葉丸は七〇三名、中村組の第二海運丸は四拾五名のひなん民を塔載して入港したが大阪聯合婦人會の大活動となり集英尋高校、愛日尋校、同裁縫女學、船場尋高校等の學校團及び一般市民は慰問に奔走し市社會局では西區鐵島に人事相談部を設けてひなん者に對し求職紹介の勞を取り米は四日以來輸送は陸續として行はれ七日には銀山丸（一萬四千俵）天龍丸（五萬五千俵）天津丸、チエリボン丸（各六萬俵宛）八日千代丸（五萬五千五百俵）九日神壽丸（四萬二千俵）十日アルタイ丸（十一萬俵）總計六拾壹萬四千四百九拾九俵を輸送し又きう濟船の第一船としては三菱所有の三瓶山丸（八〇〇噸）は多數の慰問品を積んで八日東京に急航した。九日藤田男爵家は網島の彥三郎氏の邸宅を住友男は茶臼山の內善堂と鰻谷の舊邸とを鴻池男は南區瓦屋橋畔の別莊を全部開放してきう護に當て大阪驛より下車した避難民で七、八兩日に下車したもの三五〇名余を北野不動寺に收容し、八日梅田驛では五拾人を治療し北野太融寺に七拾余人收容した。又大阪醫科大學は楠本博士を部長に、和田博士を副部長に臨時きう護班を作り其一隊は扶桑艦に乘じて東上、日比谷公園新音樂堂で治療に從事し大阪市きう護班は丸ノ內帝室林野局前及二重橋前できう援に從事した。

◉福井縣　白米三千四百六拾俵、梅干參拾樽、ラツキヨ貳拾樽、木炭六拾俵、鍋壹萬個、庖丁二萬個、藥罐四千五百個。

◉山形縣　白米、玄米千六百七拾二石其他副食物多量尙米千石宛を毎日送つて來た。

◉北海道　第二北海丸、石狩丸で米一萬石、砂糖二千五百俵、雜穀、鹽鮭を急送し上野公園に救護班を置いて救恤に着手、醫科大學は青山敎習所內に根據をかまへて治療した。

◉福岡縣　拾萬圓救助の爲に支出し米二千俵其外救護品を大阪商船大義丸に滿載して急航し衞生材料日本紙タオル炊事用具千九拾九個を貨車十臺に積み田端驛に回送した。

◉靜岡縣　小丸太一萬石、とが一萬石板一萬五千石を救恤用として急送し六拾萬圓寄贈した。

◉京都市　市內十五女學校生徒は市內木綿組合より寄附せる木綿一萬反を裁縫急送し市より米、衣服等副食物を六日特務艦多摩にて七日は新島丸によつて救援物資及救護班第二、第三の五十名及び醫藥品を滿載して急送したが京都愛國婦人會、篤志看護婦人會、大谷派婦人法話會等は京都驛に下車したる遭難者五百四十三名に對して救護した。

◉秋田縣　米十萬石及び義捐金二萬圓を募り日用品を購入して送來した。

◉茨城縣　は米一萬八千石を六日に送つて來り、救護班も上京した。

◉栃木縣　米一萬五千四百二十二石其他副食物衣服等多量及救護團。

◉關東軍　より精米七千五百七十石。

◉朝鮮總督府　は府及び各道の官公吏の月給の百分の五を義捐金として十萬圓を募り一般より募集したるもの五拾余萬圓他に牛肉其他の罐詰を急送して來た。

◉千葉縣　は五日コンデンスミルク百打、澱粉五拾噸、六日米六百六拾貳俵、氷五噸、餅五拾俵、澱粉四拾噸を東京へ、七日は米二萬二百俵を東京へ、二千七百俵及び建築材料を横濱へ輸送し、救護班を上京せしめた。

◉伊豆七島　今回のしん源地と見られて居る伊豆大島附近は反つて平穩で多少の倒潰家屋と死者四名を出した丈けで三宅島初め大島新島、神津島から百數拾名の青年團員が上京して東京府の救護員となつて活動した。

◎臺灣　は義捐金九拾萬圓を得て東京横濱に送り宇佐美長官よりラングーン米七百五拾俵、罐詰、乾物、鹽、味噌、醬油等貳拾萬圓を八日大阪商船に托して急送した。

●尙此外多數あつたが忽忙の際とて書き洩したが各府縣より上京した救護班は左の通りである。

△名古屋診療院（小石川植物園內）松本市青年團（小石川、牛込）神戶市救護團（九段坂上鳥居傍）兵庫濟生會二班及び兵庫縣第七班（牛込山吹町）東北醫科大學、京都醫科大學（上野公園）聖路加病院（青山學院內）其他三重、奈良、宮城、長野、福島、青森、石川、金澤、福岡の救護班である。

勞働者の問題

しんさい前の東京は地方より上京して來た人々の爲に多少飽滿の氣味があり到る所に勞資の係爭が行はれて居たが、一朝にして焦土となつた東京には今、賃金値上所の騷ぎでなく職を得るの途もなく路頭に迷ふ事になり十三日迄に滊車、滊船で東京を去つたもの實に百〇三萬九千八百二十七名で其內譯を云へば

五日	九萬四千五百
六日	九萬七千五百
七日	十萬八千百五十一
八日	十一萬千四百四十一
九日	九萬九千七百九十九
十日	十一萬五千四百四十一
十一日	十四萬千九百七十一
十二日	十三萬九千六百
十三日	十三萬一千四百二十四

であるが尙續々立ち去るだろうが此等の人々が農村にかへつて額に汗して貴き勞働に從事するは疲勞した農村の爲にも亦此都の爲にも好い事である、然し全然爭議がない事もない。しんさい前から行はれた各種の同盟罷工はしんさい後も引きつゞいて終熄せず、池貝鐵工場の如き遂に交渉破裂するに至つたが其の他の工場中、村松時計工場は容易に解決の見込たゝざるも東洋タイプライター會社は解雇職工卅六名に對し平均七十九圓即ち手當二千五百九十八圓しん災手當二百七十九圓を支給して大体決すべく細井ヤスリ工場も十九名に解雇手當二週間分で交渉まとまり新潟鐵工所は十三日來交渉中で近日解決するだらうがしんさい後は各社殆ど燒失し工場勞働者の死者四萬人に及んで居るから大した爭議も起るまいと思はれる。

其余の多くの勞働者の爲には目下の所東京の再興の爲に働く事が最上の途と思はれる。三田四國町の勞働總同盟本部は辛うじてさい厄を免れたが在京會員の多數は殆ど燒出され其勤務先なる芝浦製作所や日本電氣會社其他本所深川方面の工場は燒失又は倒潰して直ちに失業狀態におちいつたものが多いので本部では八日中央執行委員會を開きこの際地方會員の應援を求め會員の非常召集をなしてこの危急を救ふ決心である相であるが困るのは智識階級の勞働者で丸の內市吏員講習所に假事務所を設けてりさい者の救濟方法を講じて居るが、此際何よりも重大な問題は食糧問題で食料品は充分あつても人夫不足の爲山積して居る荷をおろす事が出來ず今日東京で一番必要なのが筋肉勞働者で智識階級のものは全然必要がない。目下一日の勞働賃銀は左の通りである。

普通人夫	三圓米一升
沖仲仕	五圓米一升
大工	五圓米一升
屍体處理夫	十圓米一升
青年團員	二圓五十錢
横濱倉庫使用人夫	六圓
荷馬車	十二圓米一舛
馬糧（麥又フスマ）	五舛
荷車借上損料	五十錢
自動車（運轉手付）	九十圓及ガソリン
運轉手	十圓

（本稿締切九月十八日）

編輯雜記

×

驚いた、怖れた、むしろ呆れた。九月一日の驚きこそ、人間の感覺のこの方面に對する最大限度のものに違ひない一種異樣の地鳴とともに、安政以來の大激震は襲來したのだ。續いて起る大火災に東京の三分の二が燒野ケ原と化し、死者七萬餘を出さうとは一體誰れが豫期し得ることだ。

×

本社の位置は京橋の山下町、地震には壁が落ちた程度の被害、社員連中至極沈着なもので、九月號の編輯も濟み印刷所の督勵に電話機をがちやつかせてゐたものだ。ところが、火事だ。市内各所に凄慘な黑煙があがりはじめる。日比谷附近が燃へ上る。ソレ寫眞部員の活動だとカメラを抱えて出動した。その時までは本社の全燒などは夢想だもしなかつたが、一時間後には本社の周圍は既に猛火の襲ふところとなつたのだ。

×

火が火を呼び、風上風下の差別もない大火災に、荷車に自動車に社員必死の大活動に出せるものは漸く車に積んで避難しようと、燒けんとする社屋に涙の訣別をして、一散に走り出したが大路小路は濛々たる煙と火焰に包まれて、一人身でさへ逃げられぬドタン塲となつてしまつた。車を捨て荷を棄て丶辛くも青山の石原社長宅に引揚げたのは夜の九時過ぎだ。

×

全市焦土と化す、況や吾が一社屋に於てをや、燒けたもの捨てたもの、死兒の齡を數へるの愚はしない。吾が社員一同は不思議に一名の死傷もなかつたから、天の惠みの厚きに感謝して、死んだつもりで大に今後働くといふ申合せまでして生れて初めての緊張、眞劍、奮闘といふものを體驗してゐる。これは九月一日を劃して將來に連續する吾等の新しい生活の重要部である。

×

山本權兵衞伯といへば、伯も不思議な機會に宰相となつたものだ。炎々たる火焰天を包む二日の夜紅葉山の御庭で山本内閣各大臣の親任式が擧げられた。何といふ劇的な場面だ。何といふ歷史的な出來事だ。

攝政宮殿下の御傷心、各相の非常の決意想像するさへ襟を正したくなる。

×

或る惡口屋がいふ。山本内閣は地震で押しあがつた内閣だ。と、成るほど暗澹たる東京ではたゞ〳〵地震と火事に全神經を戰かしてゐたのだから、權兵衞にも用郎作にも考へる餘裕はなかつたのだ。やうやく新聞が出るようになつてハハアと感じたわけ、これ程政黨政派を超絶し、うるさい文句一つ聞かずに成立した内閣はあるまい。と可笑しな感嘆をしてゐる次第だ。

×

幾多の死者、家を燒け出された氣の毒な人々に何と哀悼の意を表し同情の念を致してよいか解らない位、殊に竹の園主のやんごとなき方々が、御いたはしい御最後には、これを記すさへ涙の種である深く御悼み申上げ奉る。

×

本號は非常な努力をした。印刷所は完全でも何しろ東京の目拔きはドコも灰でその不自由はお話の外だ。如何に急いで編輯するとしても、お粗末なものを編輯する氣にはなれない。『よく早く』なんといふ流行語は、實際に一致するものではないのだから、それを實際に行かうとする爲に、名狀し難い苦心を拂つた。云へば切りがないから云はないが、この邊充分お察しを願ふ。

×

本誌は、十一月から普通號に戻る。舊に倍した大改善で諸君に面する手筈で、着々その準備を進めてゐる。全日本的の大問題である大帝都の復興の爲に振はれる斧の音を、それ〴〵寫眞に現はして御紹介するが、これは偉人なる建設の道程がどうであるか、子々孫々に傳ふべき貴重な記錄寫眞であると確信する。

×

東京の重なる印刷所、製本所は殆ど燒失した。出版界は大狼狽、大困惑の體であるが、幸に印刷所は無事であつた。たゞ本誌のグラビュア版を專門的に印刷してゐた。銀座の三間印刷が燒失し機械もその厄に遭つたことは大損害で遺憾至極だが、目下急速に復舊策を講じてゐるから、近くグラビュア印刷も出來る。

×

諸君の期待の焦點であつた。小川治平前川千帆兩畫伯合作の「世界新漫畫鳥瞰圖」は二ケ月間の日子を兩氏と編輯部員と協力苦心の下に漸く完成し印刷所に廻はして既に印刷も數萬枚に達した折柄、大震災で原稿も何もも烏有に歸してしまつた。實に泣いても〳〵泣きつくせないことだ。編輯者の殘念無念より兩畫伯の悲痛の淚はより以上で、「是非あればかりは世に出さなくては。」といふ意氣込だから、近くこれも諸君の手許にお達しすることを堅く約束して置く。

×

本誌が七月號に濃尾大地震の寫眞を揭げたことがある。あの時、實のところ編輯者は何となく厭やな氣がした。勿論それが地下の鯰と關係のあろう筈はないが、それにつけても濃尾の地震で苦い目にあつた名古屋の新聞「新愛知」は過日の同紙に左のような記事を揭げてゐた。『國際寫眞情報の七月號に『この五六月は東京地方は地震が多いそれに就ても思ひ出さる丶が濃尾の大震災だ』としてわざわざ濃尾大震災の古い寫眞を揭げてゐた。今から考へると東京地方の人々にはこの初夏以來大地シンが來はすまいかといふ豫感があつたに異ひない』と。東京の市民に豫感があつたかどうか知らないが、編輯局の地シン計には感じてゐたのだろう。呵々

×

本所被服廠跡の一件は實に酸鼻の極であつた。累々たる死屍の山は、寫眞さへ正視するに忍びざるものがある。その他所々に哀れな死者の横はれる寫眞もあつた。本誌にこれを揭げざるは、寫眞の無かつただけではない。その筋の注意もあり、又人道的の立塲から幾萬の靈位に對する弔意を表して揭載を中止した。

「劇と映畫」に就て

九月一日創刊の本社經營「劇と映畫」は、劇界、映畫界に非常な好評を博した別項廣告のように、初版は賣切れ、再版は印刷中であつたが、シン災の爲中止してしまつた。「劇と映畫」が初號なるにも拘らず斯界に於て、贏ち得た信用と權威　實に素晴しいもので、刊行十年の如きものがあつたのである。本號は已むなく休刊はしたが、十二月號からは大々的に發刊することに決定してゐる。

今回のシン災で、劇、映畫方面の雜誌畫報中には氣の毒な運命に陷つた向もあるようだが、本誌は劇、映畫の黑人筋から、この塲合權威ある本誌の發刊と活躍とを熱望されてゐるほどで、本社の大努力、犧牲は覺悟の上で、全社員を總動員して市内は勿論關西方面にも出張し、材料、編輯、印刷共々に理想的なものたらしめる手筈であるから左樣御承知あり度い。

國際寫眞情報購讀 會員申込に就て

本誌の頒布は、從來繼續會員に限つてゐましたが、今回は非常の秋に際會し、その慘狀を廣く報道する爲臨時に本號の一部販賣を行つた次第です。然し、十二月號よりは平常に復歸し吾國寫眞畫報界の最高權威として、益々その眞價を發揮しますから、今後繼續して會員たらんとする人々は、速に本社或は最寄支部支局に御申込を願ひます。

高級月刊画報

The Play & Movie

劇と映画

急告

「劇と映畫」の創刊は各方面に非常なる喝采を博し、初版三萬部忽ち賣切となり直ちに再版に着手して大方の御要求に應ぜんと鋭意工場を督勵しつゝある折柄、突如思はざりし大震災の爲、再版を中止し、第二號をも遺憾ながら休刊するの止むなきに至りました。

しかし、本社の編輯、印刷その他諸機關は全部無事なるを以て、更に陣容を整へ十一月號より新なる大活躍の天地に入り、大に諸君の御滿足を得んとするものであります。

右御諒恕を乞ひます。

國際情報社經營
劇と映畫社
假事務所
東京市赤坂區青山南町六丁目百八番地
電話青山二八一一番
振替口座東京四五〇〇番



定價一部 金壹圓貳拾錢(送料貳錢)
大正十二年九月二十九日印刷納本
大正十一年八月二日第三種郵便物認可
發行人 東京市京橋區山下町二十三番地 石原俊明
印刷所 [illegible]
臨時發行所 東京市赤坂區青山南町六丁目百八番地 國際情報社

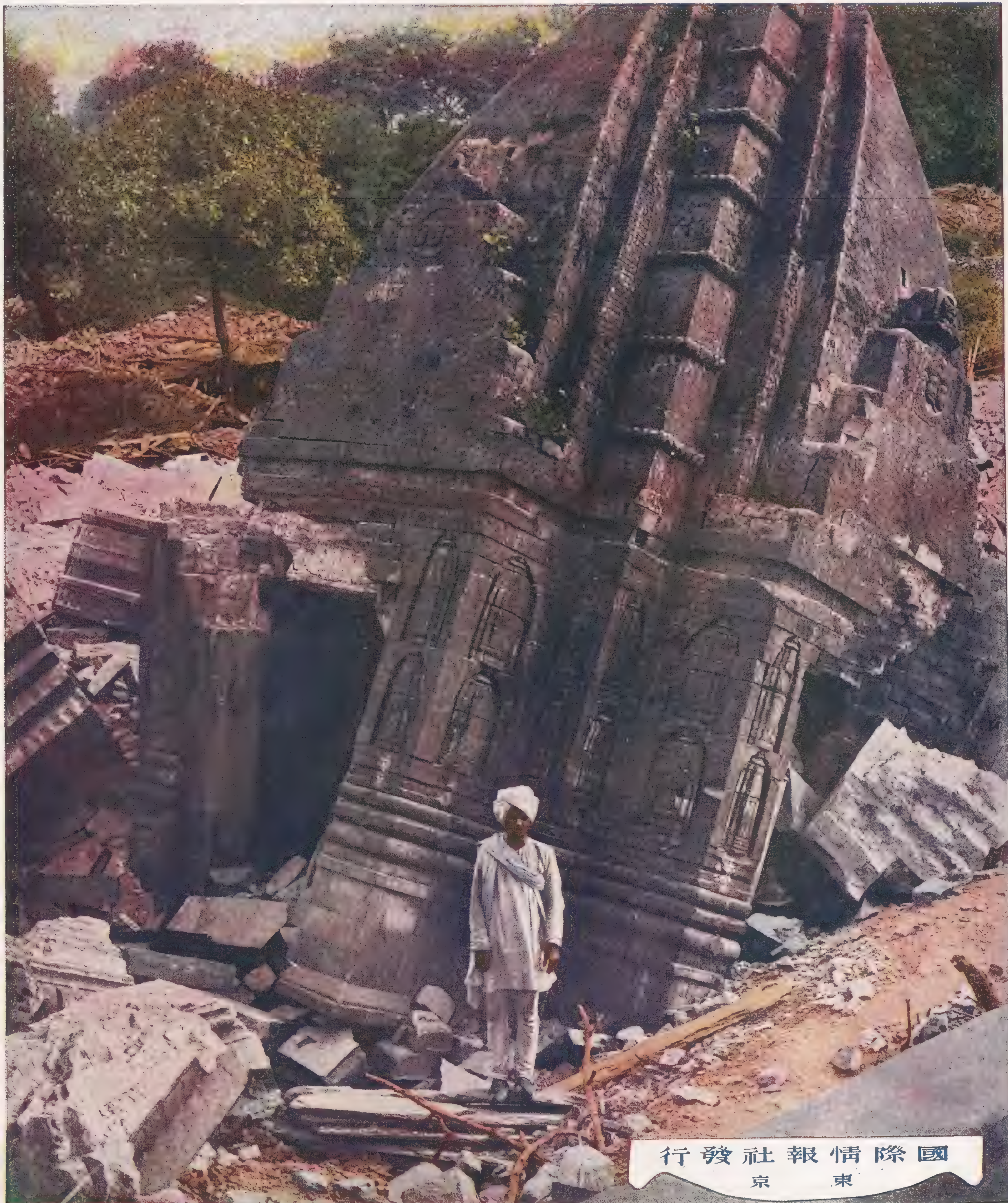
THE INTERNATIONAL GRAPHIC

國際寫眞情報

世界の大震と復興

關東大震災號姉妹篇

大正十二年十一月五日印刷納本 大正十一年八月二日第三種郵便物認可
大正十二年十一月十日發行 第二卷第十二號（毎月一回一日發行）



東京
國際情報社發行

The International Graphic

國際寫眞情報

世界の大震と復興

■第二巻第十二號■　■大正十二年十一月十日發行■

◆関東大震災號姉妹篇◆

『世界の大震と復興』の

＝發刊に就て＝

地球がその活力を失はざる限り地震は人間にとって到底除き難い永遠の悩みである。殊に吾が日本は世界大地震帯の直上に位してゐる関係から地震の災厄を最も痛切に感ぜざるべからざるの運命にあるは如何とも為し難いことである。

今次の震災は彼の安政に次ぐの大震火災であった。日本の文明が方に頂点に達せんとする旭日昇天的の意気を象徴する帝都及び横浜がその中心であっただけに被害の莫大なるは蓋し安政当時のそれに比すべくもない。この秋に当り本誌同人は世界有史以来の大地震による惨害の実状を紹介し、一面自然の暴虐に対して人間が如何に偉大なる力を振揮して復興の成果を挙げたか、明治四十一年十二月二十八日メッシナ市及び明治四十年四月十八、十九、二十日に亘るサンフランシスコの大震火災の惨状は九月一日関東激震の惨害と対比して、そぞろ肌に粟を生ずるを禁じ得ざらしめる。更に両市の市民が極度の緊張を続け、あらゆる人力を傾盡し数年にして復興の実を示し旧観に倍せる都市を建設したるは、吾等が都市復興に臨み至重至大の教訓とすべく又以て絶好の参考たるを疑はない。

また以上の内容に配するに復興の意気溢るゝ帝都の種々相を撮影掲載し全国は勿論国際的に報道せんとするものである。

希ば本社同人の微意を賛せられんことを。

—本號を以て—

大正十二年の終刊號とす

会員諸君及び本社同人の為に多幸ならんことを祈った大正十二年も、惜む可し九月一日の災厄に会して関東地方は精神的にも物質的にも深い傷痕を負ひその影響は地方にも及び一瞬にして、すべての国民の平静が失はれたことは恨みても余りあることである。

本社は不撓不屈の精神を以て非常の場合に処し幸にして本社の本領を発揮したが、匆忙混頓たる目下にあっては本社同人の日頃の抱負を示して遺憾なかるべき「国際写真情報」の編輯印刷は到底不可能なる状態にあるのである。徒に内容貧弱なる低劣誌を発行して諸君の期待に背かんより年内の終刊を一ヶ月繰上げて、来る可き大正十三年の劈頭に際し吾国写真画報界の為に万丈の気焔を挙げんことこそ同人の本志にてもあり且つ会員諸氏の満足に便すべきを思ひ本号を以て大正十二年の終刊号と決定した次第である。本誌が新年号より如何なる新規軸を出し、新装美々しく諸君に面するか刮目して待たれんことを切望する。

圓覺寺の後庭
山下新太郎氏作

THE ENKAKUJI TEMPLE
IN AUTUMN.
By Mr. Shintaro Yamashita



良子女王殿下の御勵み

震災以來、兩陛下を初め奉り攝政宮各宮家の御心使ひは國民一般の恐懼措く能はざる次第である。寫眞は良子女王(左)と御妹宮信子女王殿下が罹災民御救恤の爲衣類を親しく御裁縫遊ばされてゐるところである。この御下賜の衣をまとふ罹災者こそ不幸中の光榮といふべきであろう。

Princess Nagako Kuni-no-miya (left), the bride-elect of the Prinee Regent, sewing clothes for refugees of the recent earthquake with her sister Prince Nobuko. The Imperial wedding of the Prince Regent to Princess Nagako is announced to postpone till next spring.




第二世葦原將軍
仕事の邪魔だ
悟りました頭に
墨塗つて
近頃返り咲の
大石靉靆居士
超然
普選
軍縮
綱紀
箱根の
難関に
さしかゝつて
その態は
政友會
汗水となつて掬ひ上げたのが泥鰌一疋
復興
火災保険
九割
八割
七割
六割
五割
四割
三割
二割
一割
沸
支
初めの熱は何處へやら……あゝ寒い寒い
サアく この黍團子が賛成ならば
遠慮なくどしく随いて來たまへ
悪く腕立てすると腰の力が
革新倶樂部
政友
獨立
ルール
ラインの
野外劇
治平

震災の一場面（イタリー・メッシナ市）▼▼▼▼大森博士撮影



イタリー●メッシナ市の大地震は、その被害頗る多大であつたが、寫眞は四階建の家屋の外壁が見事に脱落して内部の部屋がすつかり外部から見えるようになつてしまつた。

The interior of a c llasped house by Messina-Reggio earthquake, 1908. Photo, by Pro. F. Om ri.

濃尾地震及び臺灣嘉義大地震の斷層 ▼▼▼▼



濃尾大震の斷層を撮影したもので、×印が土地の陷落したところである。
Upper : Great fault (×) by earthquake in Mino-Owari Provinces, 1891.

明治三十九年三月十七日臺灣嘉義地震の際地辷の斷層で、○印の邊りが陷沒の狀をよく示してゐる。
Lower : Land slinding and fault (○) by Kagi earth quake, Formosa. March 17, 1905.

飛行機から見た焦土の東京

片岡飛行士の機上より撮影





上圖は、芝公園增上寺を中心に附近一體、下方は火災を免れ上方は全部焦土と化した。下圖は、本所方面、左方の大建築物は國技館である。
Above : Near the Zojoji Temple from the air. In the back ground one part of Tokyo burned is seen. Below : In Honjo. The Natjonal Ampi-theatre cιn be seēn.

上圖は、不思議にも助かつた淺草觀音、附近は一面の燒野ヶ原。　下圖は、京橋月島方面の燒跡。
Upper : The Sensoji Temple which narrow escaped from the big fire. Lower : Tsukishima and the Sumida River.





イタリー・メッシナ市 大震害の思ひ出



近來の地震と云へば千九百〇八年にイタリーに起つた大地震を思ひ出される。メッシーナ市及びレギオ市が全滅したが今では立派に復興されて居る。

上、メッシーナ市「ガリバルヂ」街の慘狀。

中、觀象台より見たる復活後のメッシーナで建物は皆二階建である。(今村博士撮影)

下、「九月一日」街の慘狀。

Upper: The Galibaldi Street, Messina.

Center: Messina reconstructed. Photo by Dr. A. Imamura.

Lower: The September First Avenue, Messina.





ンシスコ
の思ひ出

Right-upper: The City Hall of Sanfrancisco. Lower: The Memorial Arch of Stanford University. Left-above: A damaged church in Toremouth City. Below. Effect of a semi-reinforced concrete building. Photo by Dr. F. Omori. By courtesy of Dr. A. Imamura.

今度の關東大震災は色々の意味に於いて米國サンフランシスコの大震災と比較をされる。桑港は千九百〇六年四月の十七日より三日間に涉つてやはり大火災に襲はれ、さしも壯麗なる大都市も焦土に歸してしまつたが、數年ならずして以前に優る美しい都會を作り上げてしまつた。我東京も果して斯の如くに迅速に復興されるであろうか？茲に震災當時の有樣を偲ぶ事とする。（大森博士撮影、今村博士の好意に依る）

右上、サンフランシスコ市廳の全潰。
下は、大破したスタンフォード大學の記念アーチ。
左上、トマーレス市の教會堂の慘狀。
下は、半鐵骨建築物の効用。



サンフラ
大震害

印度の大地震の思ひ出

サンフランシスコの地震と並稱されたのは明治三十八年の印度の大地震であつた、カングラ及び、ダルサムラ地方が可成りにひどかつた、寫眞は當時の有樣で大森房吉博士の親しく撮影されたものである。

上、カングラ附近「ドウラトポール」の神堂の頭部の轉落。　下は、監獄署の前部の全潰の有樣

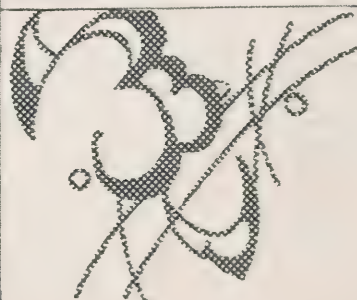
Earthquake of India, 1866. Upper: The fallen top of the Douratopole Cathedral near Khangra, India.
Lower: A damaged prison office. Photo by Dr. F. Omori.

復興の意気溢るゝ東京市 ▼▼▼▼▼ (丸の内ビルディングより撮影)

市制博士と地震博士

昨年後藤子爵の招きに應じて東京市制調査の爲來朝したビアード博士は今回の大震災の爲再び急電に接して九月二十四日來朝した。博士はサンフランシスコ震災の時にも經驗があるので今後の大東京建設については博士から適切なる助力が得られる事と思ふ。下は米國の地震學の泰斗にして世界的權威のハワイ火山觀測所長ジアガア博士で、同博士は東京震災と聞くや直ちに出發調査の爲來朝したが櫻島爆發の時にも來朝した事がある。

Dr. Beard, of America was invited again by Viscount Goto, Minister of Home Affairs, to advise on the plan of the reconstruction of the devasted capital. (above). Dr. Giager, of Hawaii Volcanic Observatory, authority of Seismology in the world, has visit Japan to inspect the results of the recent earthquake. (below).



御慰問

いとも畏き

光明皇后の御再生にやおはさんと、その御仁慈の深きに國民景仰の的となつてゐらるゝ皇后陛下には今次、の震災に市民の困苦を一方ならず御軫念あらせられ、大御心をいためられて市内各所に御慰問の爲行啓あらせられてゐるが、寫眞は陛下が日本赤十字社病院に行啓親しく罹災傷病者の御慰問を遊ばされる光景である。

Right: The Empress visiting the Japan Red Cross Society Hospital.

下圖、攝政宮殿下にも日夜市民の窮狀に御心をくだかれてゐられる。寫眞は横濱に行啓港内より市中の慘狀を御視察遊ばされてゐる光景である。

Above:
The Prince Regent visiting Yokohama.

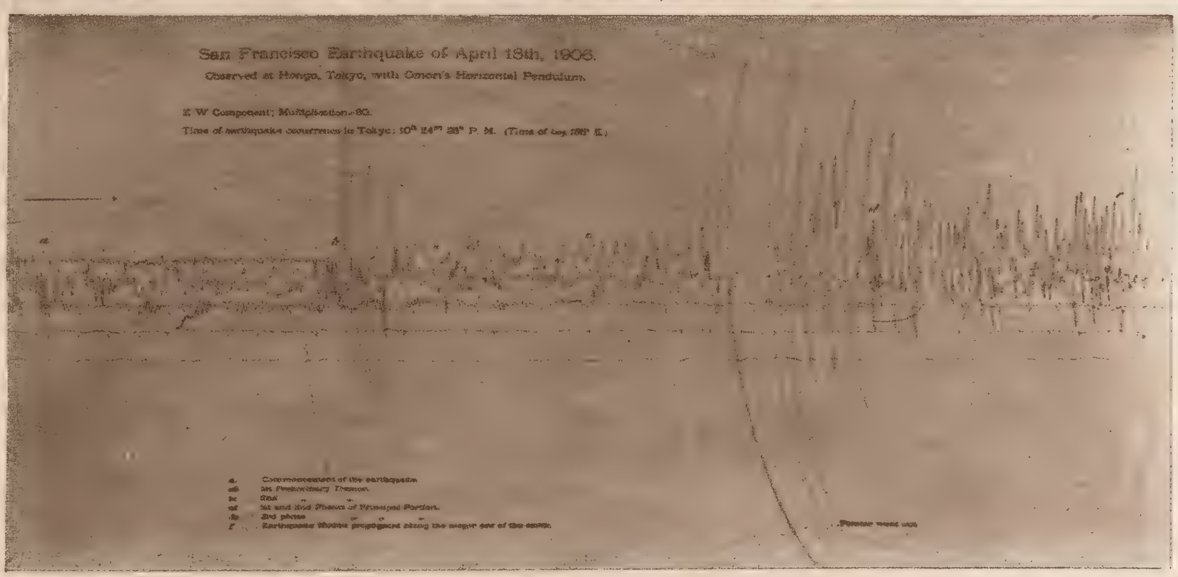


サンフランシスコの大震火災



右頁上圖は桑港震災に全潰したスタンフォード大學の圖書館、同下圖は地震の爲に打倒された巨樹であるが、切り口を見てもこんな大木か判るだらう。邪魔になるので切り取つた時の有樣。左頁上圖、倒潰の家屋。中圖に東京の帝國大學大森地震計で觀測した桑港の大地震で、餘り大きいので針か地震計から外れて居る。下圖市街の慘狀。（大森博士撮影）







SAN FRANCISCO EARTHQUAKE,—1906.

Right-upper: Danmaged library, Stanford University.
Lower: A fallen giant tree by the quake
Left-above: Collasped houses on the street.

Centre: San Francisco earthqnake observed with Dr. Omori's seismograph at Tokyo Imperial University.
Below: Result of the quake. Photos by Prof. F. Omori.

リニ
シナ
震害（大森博士撮影）

イタ
メツ
の大

大震余劇の 甘粕事件



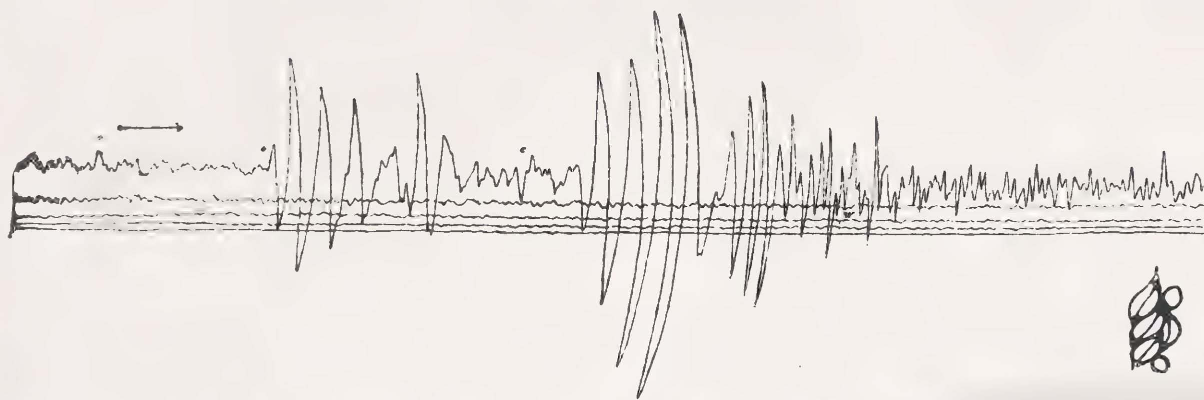




大震翌日、甘粕憲兵大尉が部下と共に無政府主義者大杉榮氏及び夫人野枝、親戚の小兒宗一を縊り殺したことは、天下の怪事件として社會に一の波紋を起してゐる。その判決は未だ下らず輕々に判斷を下す時機ではないが、兎に角いろいろに考への余地ある事件たることに間違ひはない。寫眞上圖、第一師團の軍法會議法廷に立つた甘粕大尉。下圖、大杉氏夫妻と、その死骸を投じた憲兵司令部内の古井戸。

A GENDARME CAPTAIN KILLS AN ANARCHIST.
Above: Captain Amakasu, who killed an anarchist, on the trial held at Ist Division. Below: Mr. Osugi, the Anarchist leader who was killed by Captain Amakasu, with his wife and an old well in the compound of the Gendarmei Headquaeters, where the bodies were thrown.

印度大震の思ひ出



上圖は、明治三十九年四月四日午前九時五十八分五十一秒東京帝大地震學教室の地震計に感じた記錄、下圖は、その慘憺たる光景の一つ（二色版寫眞參照）

Above: Ind.a ear hqua!e . bserved at the Tokyo Imperial University.
Below: The result of the quake.

榮華を偲ぶ・・・・ポンペイの市

下圖は、發掘された建築物の一ツ、目下續々として發掘されてゐる。

Below: One of the houses by the latest excavation.





レモンの花咲くイタリヤの南部、ベスビアス火山の麓に近いところに美しい小都市ポンペイがあつた。都市としてはよく出來てゐる町で、舗道は美しく布かれ雨の日も泥を踏まずして往來ができ、公園、劇場、噴泉、公衆浴場等よく完備してゐた。當時はローマ全盛の折柄とて奢侈淫蕩の風は全市に漲つて市民は連日連夜酒池肉林の快樂に耽り、誰一人として明日の命を豫知するものもなく、享樂時代の世界が現はれた樣に思つてゐたが西暦七十九年八月二十四日突如として大爆發をしたヴェスビアスの大噴火に歡樂の巷は忽にして阿鼻叫喚の町となり地震、火事相繼いで起り熔岩、熱灰全市を埋めて、或者は劇場に、或者は酒場に、又或者は寢室にあつた儘約二十呎の灰の下に埋れてしまつた。爾來千有余年誰とても此ポンペイを知るものもなかつたが一日葡萄園の農夫の鋤先にカチリッと當つた大理石の柱頭がポンペイ發掘の緒となり、イタリー政府の熱心な努力によつて今日では殆ど大部分が發掘されてゐる。寫眞は最近のポンペイ市の空中寫眞であるが劇場に通ずる路が最も新しく發掘された所である。

THE LATEST PHOTOGRAPH OF POMPEII FROM THE AIR.

The road leading to the amphitheatre was unearthed recently.



上圖は、復活せるサンフランシスコ市(現在)。右は、大火災中の同市。
Upper: San Francisco of to ay. Righ: The city in the flames.





上は、火災中の市內。下は、大災後の市中の慘狀。
Above: Th city in th flame. Below: Disastrous c nes after the conflagration.



震災前の
復活



サンフランシスコ現在の光景で、大震火災に非常な痛手を負つたが市民の偉大な努力は遂に今日の如き盛觀を呈するに至つた。
Vi w of San Francisco. Aft r the painstak ng effort of the c tizen, the b autiful city was reconstructe l.





左は、市民が街上に避難したところ。 右は、軍隊の取締りの裡に罹災者が食糧品の給與を受けてゐるところである。
Left: Refugees on the road. Ri ht: Th b ead line of the refugees.



イタリー
メッシナ市大震災の思ひ出



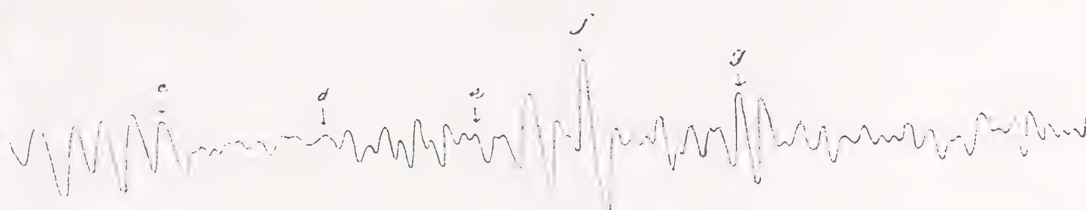


上圖は、震災前のメッシナ市の海岸通り。
中圖は、船の上に避難した市民。その光景は横濱の市民が船中に避難した時とよく似て居る。
下圖は、ボルタレーニ溪流に落ち込んだ倒潰家屋。

Upper: Messina before the earthquake.
Middle: Refugees on the board.
Lower: A collasped house in the Boltareni Valley.







上は、震災前のメッシナ市。
上左は、震害の一惨景。
下は、東京に感じた地震記錄。

Above: Messina before the quake.
Below: Messina earthquake observed at the Tokyo Imperial University.

秋田の大震

上圖、秋田縣仙北郡の大震で耐震的の鐘樓は倒れなかつたが本堂は全潰してしまつた。(帝大加藤氏撮影)　下圖は臺灣嘉義の地震の慘狀。
Upper: The wrecked main Hale by Akita earth quake, Photo by Mr. Kato.　Lower: A dis astrous scene of Kagi earth quake, Formosa.

臺灣嘉義の地震

市民の疲れた頭を慰める催しもの



上圖、人氣ものゝ澤田正二郎君が、日比谷公園の新音樂堂で演じた勸進帳の一場面で、非常な喝采を博した

Sho̧jiro S wada, the popular actor, has performed "Kanjincho," the famous classic ןlav, for the refugees on the new bandstand in H biya Park.







上圖右は、淺草公園で松旭齋天勝一座が演じた市民慰安の野外奇術、美しい連中の一座とて見物のよろこびは大したものであつた。
左は、一行連中の奇術。
下は、明治神宮の外苑に於ける市民慰安の軍樂隊の演奏。

Upper-r ght: Miss Tenkatsu Shokyoku-Sai played her skill'ul stunts to comfort the citizen in Asakusa Park.
Left: A proc ssin of the Tenkatsu Party.
Lower: A comforting concert was ןlay d by the Millitary Band in the compound of the Meiji Shrine.

かりの氣分









上圖、人形町より兜町を望んだバラックの市街。

中央左は、京橋尾張町附近でいちはやくも立てた燒殘り應用のバラック二階の菓子屋さん。

右は、大村益次郎の銅像を圍んで建築された九段のバラック街。

下、神田須田町廣瀨中佐の銅像を圍んで早くも神田ッ兒の意氣をしめしたバラックの街。

Upper: Viewing Ningyo-cho for Kabuto-cho.

Middle-left: Near Owari-cho. A barrack confectionary.

Right: A barrack village around the statue of Omura Masujiro, Kudan.

Lower: Barracks erected around the Statue of Commander Hirose, the busiesrt Square in Kanda.

溢れんば

復興







上は、日比谷大神宮の假神殿、もうこのお宮で結婚 式が【々擧げられてゐる。
中央に、アメリカから着いた復興用の木材の山。(月島所見)
下左に、木材ゝ運般に忙しい人々。
下右は、早くも出來上つた京橋木挽町十五銀行本店の大バラツケ。

Above: The temoporary Hibiya Grand Shrine, where mary wedding ceremonies are holding.
Centre: A n.ou ain of timb rs for constructuion from Am rica.
Left: Busiest people in convaying timbers.
B low-right: The barrack Headquaters of the Jugo Ginko at Kodi-i-cho.





あはたゞしい

震災後の東京





上圖は、丸ビルから見た附近の賑ひ。この附近は露店がならんで毎日緣日のような騷ぎだ。
右は、日本橋通りの燒跡に早くも開かれた鯛めし屋の大旗。さすがに日本橋らしい氣分をたゞよはしてゐる。

Above: Stalls near the Maru-no-uchi Building.
Right: A banner of a barrack resraurant seen in the devastated Nihombashi ward.





上は、日比谷公園の運動場に建築されたバラックで、公園の中に俄に出來た町だが、その賑やかさは想像外である。
下は、公園内の臨時圖書館。

Above: A barrack village built in the ground a in Hibiya Park.
Below: A temporary library.



震災の爲職を失なつて困つ　居る鮮人學生勞働者が軍隊に擁護されて歸國するさころ。圖は須田町附近の有様。

下は、震災に苦められその上雨の度に水攻めの本所深川區民。

Upper: Ch senese student abourers returning for home under the guard of the troop. (Near Sudacho. Kanda.)

Lower: The flood suffered the refugees in Honjo and Fukagawa wards aft r the disaster.







上は、上野公園附近の露店で、床屋さんが路上でバリカンを動かす手もいそがしい。

左は、日比谷公園の下駄病院さいへば大きいが實は齒入れやさん。

Above: A busy barber seen in Ueno Pa.k

Left: "Ha re-ya-san" repairing the "Geta," wooden shoes, in Hibiya Park.

アメリカの同情

今回の震災に際して各國の同情は素晴しいものがあつた。殊にアメリカ國民は排日派親日派何れも一齊に起つて、罹災地救援に盡した志は日本國民の感謝に堪えざるところである。こゝに掲げた寫眞はアメリカの同情を示すべくその一端に過ぎないが、同國の厚い情を印銘するの好資料たるを信ずるものである。

Deep Simpathy of America.







上圖は、十月十三日麻布仙臺坂なる高松宮邸に設けられたアメリカ天幕病院の寄贈式。　下圖は、閑院宮邸に於けるアメリカ救援隊の招待。寫眞左より田中陸相、伊集院外相、ウッズ大使、閑院宮殿下、後藤內相、財部海相その他の人々。　中央は、アメリカの兵士が工事中の光景。

Upper: The delivering ceremony of the American camp Hospital erected in the compound of Prince Takamatsu-no-miya, Sendai-zaka, Azabu., October 13. Middle: American Soldiers at Work. Lower: The reseption at the Prince Kan' in's estate. From left: General Tanaka, War minister, Mr. Ijuin, Minister of Foreign Affairs, Mr. Cyrus Woods, American Ambassador, Prince Kan' in, Viscount Goto, Minister of Home Affairs, and Mr. Takarabe, Minister of the Navy, etc.







上は、アメリカから着いた看護婦の一團。 中央は、アメリカ兵士が同國大使館の燒跡を取りかたづけてゐるところ。 左は、アメリカから寄贈の食料品の山。
下は、支那紅十字隊の隊員と看護婦で非常な活動をして既に歸國した。

Above: A party of American nurses. Centre: American soldiers working at the ruins of the American Embassy. Left: A mount of food contributed from America. Below: Nurses of the Chinese Red Cross Society at work.

香煙もかなしく

魔の場所・被服廠跡の大供養







十月十九日は、九月一日大震災の當日本所被服廠跡に於て三萬餘人の燒死者を出して丁度四十九日に當るので、東京市主催の大追悼會が營まれた。寫眞は當日入場の大官名士連。　上右は、後藤内相の弔辭朗讀。下は一般の人々が今さらの涙ながらに回向をしてゐるところである。

A memorial service was held at the ruins of the Army Clothing Department in Honjo under auspieces of the City of Tokyo on October 19, where about 30,000 refugees burnt to death during the recent conflagration. Upper-right: Viscount Goto, Minister of Home Affairs reading an address of condolence. Lower: Citizen worshipping with tears.

世界震災物語

附・帝都各区復興視察記

□

人類災厄の歴史を稽へるこ今回——大正十二年九月一日午前十一時五十八分——の關東大震災も世界的慘禍の記錄的地震である。

日本に於て古來地震神鳴り火事親爺こ言はれて最も恐怖すべきものこ思はれてゐる地震こ火災！　是れによつて我國文化の中心地帶は總て破壞せられ、國費壹百十五億貳千萬圓是れが犧牲こなつた。死傷者の數實に二十二万人の多きを數へ、物質的にも精神的にもなかなかに消えかねる傷痕であるこ云はねばならぬ。

世……界の地震……と地震帶

一体奇巖怪石に富む山、湖水あり火山あり温泉ある所謂風光明美な國には大抵地震が多い。我國に於ける富士の靈峯も琵琶湖も我が孝靈天皇の御字の地震で一夜のうちに出來上つたものだこいふ幽ケ神秘な說さへある。横に棚引く火山の噴煙も思ひをはせる便こし、明鏡の如き一碧を湛えた湖を重巒の間に俯瞰して悠々温泉に浸る餘裕さも、實は往々にして怖しい地震を惹起させる火山帶のお蔭こ思へば地震も左のみ惜くはない筈である。が玆に『地球の弱線』こ言はれる龜裂線が溝をなして地球を一回周してゐる部分がある。之れを地震帶こ呼ぶ。

我國地震學者の所謂外側大地震帶である。

世界に於ける地震帶の分布は南米智利の極南からその西海岸に沿ふて北米アラスカ附近まで北上し、こゝより左折してアリユーシャン群島から我が千島を掠めて南下し北海道や本州の太平洋に面した海岸を房總半島、伊豆半島を經て、四國沖より臺灣に出で廣東に上陸し、ヒマラヤ山脈を縫ふてトルキスタン小亞細亞地方を橫斷し　再び海に入り、地中海を西に歐州大陸の西端に達する。我國は此の大地震帶が國の果から果まで縱貫してゐるのである。

別に之れこ分岐して我が國の各地を横切る支線が幾つもある。その主なるものゝ一つは江戸川より東京灣に至る所謂江戸川東京灣地震帶である。

今これ等の地震帶に起つた破壞的强震を列擧するこ、南北亞米利加洲に於ては、

◇北米アラスカ西南の海洋中に起つた西紀一八九九年(明治三十二年)九月四日及び同十一日——兩回こも津浪を伴ふた——並に翌年十月九日の三回に亙る地震。

◇南米メキシコ及び中央亞米利加のグワテマラを激動した一九〇〇年一月二日、一九〇二年四月十九日及び同年九月二十二日の三回の地震。

◇西紀一九〇六年二月一日、中央亞米利加のパナマ及び南亞米利加の西北隅なるヨロンビア、エクアドル兩國の津浪をも伴ふた地震。

◇同じく一九〇六年四月十八日のサンフランシスコの有名な大地震。

◇同年八月十七日北米アリユーシャン列島の南側海中より發した地震。

◇同年同月日に前者より三十分後に發震した南亞米利加洲智利の津浪を伴つた大地震。

等であるが、更に亞細亞及歐羅巴方面を撿べるこ、

西紀一八九七年（明治三十年）六月十二日、印度はアッサム及びベンゴール兩州に起つた地震。

一八九九年九月二十日小亞細亞スミルナ港附近のアイヂンに於ける地震。

一九〇二年八月二十二日のトルキスタンに於ける地震。

一九〇四年四月四日歐羅巴土耳古南岸のサロニキ市及びマケドニア地方に起つた地震。

同年四月二十四日、同十一月六日、翌々年即ち西紀一九〇六年三月十七日及び四月十四日の臺灣嘉義の地震。

西紀一九〇五年四月四日印度パンジャップ州ガングラ地方の地震。

同年九月八日イタリアのカラブリア州モンテレオネ地方の地震。

一九〇八年十二月二十八日イタリアのメッシナ附近の大地震。

一九一一年（明治四十四年）六月十五日琉球北部に於ける地震。

西紀一九二〇年（大正九年）五月十三日伊豆大島附近に發した地震。

及び西紀一九二三年即ち大正十二年九月一日の伊豆大島の徼北に當つて起震の中心をなす今回の大地震である。尙ほ之れを遠く遡つては西紀一七〇三年十二月三十日のかの有名な元祿十六年の關東東海道一圓に及ぶ津浪を伴ふた大地震も、此の外側大地震帶に屬するものである。

江戸川東京灣地震帶に屬する有名な破壞地震こしては西紀一六四九年即ち慶安二年七月二十五日江戸及び湘南地方の津浪を伴つた大地震、西紀一八一二年我が文化九年十二月七日の江戸、神奈川、程ケ谷附近の地震、それから安政の大地震——西紀一八五五年、即ち安政二年十一月十一日（陰曆十月二日）千葉縣金町龜有地方を震源地こして江戸に大慘害を惹起したもの、西紀一八九三年（明治廿七年）六月二十日、埼玉縣鴻の巢桶川地方を震源地として東京に及んだ地震等その主なるものである。

斯の如く地震帶の分布に與かる各地方は繁々として地震を惹起し、北半球のみでもSchmidt氏の觀測によると一年間に實に二萬二千八十三回の多きに及んでゐると云ふ。

筆者はいま是等頻發した震災の有樣を一々詳述するのは控へやう。そして上記以前のもの、及び世界大地震として名高いその幾つかに就いて書きたいと思ふ。

地……球の悩み……地震物語

稀有に精巧な自然の創造の手も地球を一回周するこの龜烈線には思ひ及ばなかつたと見えて古來此の弱線上にのみ屢々繰りかへされる人間慘禍には恐らく偉大な自然も手を焼いてゐるであらう。斯かる厄介な地震帶に見舞はれてゐる我が國は更にまた木の葉の纖維網にも劣らぬ火山系の分布を餘義なくされて、世界に於ける記錄的地震の筆頭に置かれてゐるのも蓋し偶然ではない。

帝都羅災各地の復興振り

復興！　復興！　の意氣は天に沖せんばかりである。しかし、現在の東京市は未だ復興の眞の舞臺に入つたものこは云へない。復興の端緒をつかんで楮てこれからといふところである。こゝに揭げた各區の寫眞は偉大なる人力をふるはんとする、その空氣をうかがふに足るであらうと思ふ。



芝愛宕山より芝區、京橋區を望む。

世界の大地震の記錄に殘れるものでは西紀六三年、伊太利ポムペイに起つた大地震と之についで同七九年八月二十四日の夜ヴエスヴイアス山の大噴火による前後二回に亘る大自然の暴虐な手によつて同市がスタビエ及びヘルクラネウムと共に溶岩及び灰の爲めに全然埋歿せられて了つた大悲劇がある。

悅樂と豪奢の都！　規劃整然たる街區は高層樓閣が軒をならべ天を摩し、巍々として碧空に屹立する寺院の塔も此の都の豪奢を誇る神の根城であつたといふ。

兎に角羅馬帝國全盛の時代だ。織るが如く往き交ふ車馬のうちは榮華に醉へる諸々の貴賓が錦繡五彩の綾羅に裝ひの美を盡し、『今日は某の饗宴に明日は競技場に』と其の浮華なること紅塵の如く、夜の夢ならぬ春日の尙ほ永からぬを喞つたものだ「斯の如く爛熟しきつた當時の文明の都ポムペイは一夜のうちに土崩瓦解したのである。

凡そ人の心が追想とか想像とかに向つて働く場合は、事柄の善惡に關はらず、常にその最上級に引き上げられ、そしてみごとにレフアインされた一種の藝術的情趣にまで導かれてゆくものだ。そして翻つて道義的に解釋する。話は多少横道にそれるが、恐らく今日の東京市に於ける悲慘な自然の破壞を何世紀かの後に追想する場合、災害直前の社會狀態を記述するに當つて『今日は帝劇、明日は三越』にまで持つて行くに違ひない。昔、明曆の江戸大火の折、

『近年大身の人々は勿論、私ども又は下々の者まで、皆五十餘年の泰平に馴れて、浮薄に流れ驕奢に長じ、分に過ぎたる榮耀を事としてゐる。隨つて財寶足らざるが故に自然に上は民百姓に貪り、下は互に相食る。此の度の大變は實に天罰である。天道より誠に善い意見を受けたのである。就いては人々翻然として積年の非を悔い改め萬づ眞の士風俗に復することに一統努力するより外は無からう』といふ意味を記した者が少くないと三上參次博士の一文に拜見した。筆者は今回東京市の罹災者の幾人からか斯うした意味と眞實同樣な語を泌々と懺悔話にされた。大自然の攝理は爛熟して行きつまつた所謂文明のクライマックスに對して此の如く斧を振ふ。

ポムペイもその昔、自然の神のブラツクリストの筆頭に置かれたものに相違なからう。

この豪奢を極めたポムペイ市とヴエスヴイオス火山の大噴火に伴ふ大地震とを背景にして、英國の歷史小說家バルワー・リツトン卿は彼の作『ポンペイ最後の日』中に當時の有樣を面白く運んでゐる。

其の骨子に確的な典據があり、然も當時のポンペイの街區の有樣、社會狀態等面白く思はれるので、少しく冗漫にわたるきらひはあるが、『確的な典據』といふことに思ひを致して讀んで貰ひたい。手短にかく。

アルボの居酒屋に、主人の虐待と周圍の迫害と貧苦と孤獨の悲運に泣く若い麗はしい盲目の歌ひ女にニジアといふのがゐる。ポムペイにある運命の神イシスの神殿に祭祠を司る埃及人アルバシーズといふ、地位と黃金の權勢とに肉の歡樂に飽くことを知らぬ兇惡無道の人面鬼がある。淸廉にして勇氣あり而も情に脆い騎士氣質の風貌麗はしいアテネの青年グラウカスと前記アルバシーズとが、ポムペイに於ける貴婦人でありまた傾國の美姬にして青年グラウカスの愛人たるアイオーネを間に戀の葛藤を生つる、これが主要なプロツトになつてゐる。

祭祠の司アルバシーズにその肉を强要され、剩へ己が主人の居酒屋の亭主からは人にあるまじき虐遇を受け、泌々と自分の運命のあはれさに泣く盲目の歌ひ女ニジアは、青年グラウカスによつて辛くも此の悲しい運命から救ひ上げられる。グラウカスの自分に對する物やさしい囁き、その男らしい聲音、凛乎としたうちにも優にしとやかなその衣ずれの音にも處女心をときめかせるニジアは以前に增した苦惱のどん底に墮る。適々祭祠の司アルバシーズと青年グラウカスとの間に大競技場に於いてアイオーネが落した一輪の薔薇の花より戀の反目は愈々つのる。アルバシーズはまた一方アイオーネを不可思議なイシスの神殿に誘惑し、あはれ花の如き處女アイオーネの貞操は暴惡なるアルバシーズの手に押へつけられる危機一髮の際、自分には戀の仇敵たるアイオーネの危機に臨んで、ニジアは幾度か苦惱し嗟嘆し、翻然としてアイオーネを救はうと決心する。

祭祠の司アルバシーズは如何にかしてアイオーネを我手に入れんと陰謀をめぐらし、青年グラウカスは執念深い陰險極りなき此の罠に係つて了ひ、遂に殺人罪に問はれ、フオルムに於て執政官から死刑の宣告を受け、例の大競技場に引き出されて餓えた一群の獅子にその肉を屠られることになつて了ふ。

甲冑に身をかためた嚴めしい羅馬の兵士の一隊は、總ては運命と心得たアテネの青年グラウカスを引き立てひきたて、劍光燦として嚴めしく、八月二十四日の曉雲を破つた朝日は、ポムペイの大通りを大競技場へとゆく是等の人々を照して見せた。

グラウカスは大競技場の眞只中に突立つた。

いまゝで保つて來た己が名譽を、淸き名を、希くば終りまで汚すまじと、手にしてゐるのは一本の短劍である。

遠く之れを取りまく競技場の棧席は今日ばかりは眼も彩に着飾つた貴顯の紳士淑女が所なきまで綺羅星の如く居並んでゐる。

程なく獅子の番人は猛惡な大獅子の檻を開け放つた。

好膳羞御參なれ！一群の獸王頓に荒れ狂ひ、躍り掛つてグラウカスに飛び懸るかと思ひの外、獅子は言ひしれぬ恐怖に襲はれてゐるやうに、グラウカスには近寄らず只狂氣の如くに荒れ出して競技場の大きい周圍を眼がけて驅け廻り、其の身を逃れやうとする樣に觀衆は皆啞然として了ふ。

その瞬間、盲目の歌ひ女ニジアの樣々な艱難辛苦によつて導かれたグラウカスの友人はニジアとアイオーネを引きつれて執政官の前に飛び込んで來て、祭祠の司アルバシーズの積惡を逐一陳述する。

『憎い埃及の坊主奴！八つ裂きにせよ！』と度萬の觀衆は騷ぎ出し大混亂を生づる。觀衆はアルバシーズを棧席より引き下ろし競技場の中央に引き立たせる爲めに混雜してゐるやさき、彼方のヴエスヴイオス山上に物凄い火焰の柱が炎々として天に沖ると見る間に轟然たる音響と共に天地晦冥となり、熱しきつた火山岩は飛んで急霰の如く所きらはず墜落し、溶岩の流れは焰の津浪となつて押し寄せて來る。すわや！と思ふ間もあらせず、火山の爆發に伴ふ大地震はさしも堅固な競技場をゆら〳〵と搖ると忽ち恐ろしい音響と共に折り重なつて崩壞して了ふ。

身を以て脫かれたニジアとグラウカス及びアイオーネは、押し寄せる溶岩を後に降りしきる火石の間を驀地に、ポンペイ街の海岸へと志す。盲目ではあるが永年住み馴れた土地だけに、ニジアは相思の二人を導く、浪打ち際には二人の船頭が今や船によつて逃れやうとしてゐた。グロウカスとアイオーネとは辛ふじて船に乘つた、

『早く〳〵！　ニジアよ』

とグラウカスの急きたつる聲にも答なく、あはれ彼方の沖に、彼方の岩に平和の幻、希望の幻、懷しい幻影が見えるかのやうに、盲目の少女ニジアは見えやらぬ眼を見開き見開き見つめてゐた。

『あはれ淸き海原よ、我れをさそふか、なつかしの汝の聲の聞ゆるよ……』

とニジアの謠ふ聲音は動搖めく浪間にきれぎれに聞えた。

これが『ポムペイ最後の日』の大團圓である。競技場に於ける獅子は實に此の天變地異を豫感してゐたので、そのやがて來るべき大厄災に言ひしれぬ恐怖に襲はれてゐたのである。

兎に角此のやうな動物の行動變化の特徴は、その變化が、概ね變災より餘程以前に既に見えそめるものである。

動物の感受本能の美妙な現はれを巧みに捉へてゐる點に於いて推服する。

歷史上にも著名なフオルム Forum――ロンドンならば某スクエヤーと言つた場所に健てられた造營物― 朝市がたつたり、



芝愛宕町附近。左は有名な「おばけ銀杏」



赤阪山王下附近。

審判の宣告を下す法廷も設けられてあり、市民の會議場も設置されてあつた其のフォルムも、黄金と人肉の耽樂に夜に日を分たぬ伏魔殿たるイシスの殿堂も、大競技場も大浴場も貴族の別荘も、夫れから當時の伊太利市民の生活狀態を偲ぶ可き各種の製造所工場等も區劃整然と建ち並んでゐたのであるが、此の偉大なる暴戻さには全く跡方もなく埋歿して了つたのである。政治も哲學も文藝も、戀も名譽も富貴も權勢も、爾來實に一千七百年の間、自然は奇しくも地下に秘めてゐたのだ。ブルタスやオーガスツスと言つた連中が詩の如き美辭麗句を聯ねた壯重に勁烈な滔々懸河の辯もかのフォルムで聞かれた事であらう。市民はそれにどんなにか歡呼　動搖みをつくつたであらう。

畑……中から都が出た

抑々この土中の都市を發掘するに至つた動機が面白い。

或る日農夫は自分の栽培する葡萄畑の手入れにいつた。鍬を土中に打ち込むと、カチリと鍬の刃にあたつたのは、實に一千七百年を土中に眠つてゐた上古に於ける伊太利大都市の大廈高樓の一角である。農夫は更に鍬を入れた。記錄にもなく口碑傳承による筈もなく全く人々の思ひ設けぬ土中の都市ポムパイは此の農夫によつて始めて隔時代の風に遇つたのである。一說には農夫が井戸を掘つてゐると地中から一個の美術品が出て來た。それは餘りに彼の現生活に於ける器物よりも異つた殁交渉なものであつたが、優れた藝術の匂ひは眞に無學なこの農夫をして考へさせた。そして摸索の結果は漸時市街が地下に埋歿してゐることを覺らしめたのだとも言はれてゐる。

斯くて同市は西紀一八〇〇年頃から發掘に着手され、一九〇六年までには全市の約五分の三ほど發掘されたが、埋歿前の同市の上古建築の各種各樣は地震によつて二階以上の部分から破壞しつくされてゐるがそれ以下は構して當時のまゝに殘存し、其の輪奐の美を偲ばせてゐる。當時の美術品、器具等も多く發掘されてゐる。

西紀一五五七年、明の世宗の嘉靖三十五年、支那黄河の一支流渭水の沿岸地方に起つた地震も記錄さる可き震災であつたに違ひない。死者八十三萬餘人と號してゐるが是れは所謂支那式記錄ではないかと思ふ。

× × ×

下つて一六九三年伊太利シシリー島の震災も可なり激甚なものであつたらしい。この災害による死者は十萬を算したのである。

兎に角伊太利も我國同樣有名な地震國である。

十八世紀の終りにもカラブリヤ地方に可なり激しい地震があつた。此の時は二月の五日から三月廿八日まで即ち約二ケ月間に破壞地震、家を倒す烈震が三回あつて、小さなカラブリヤ市だけでも震災の爲めに死んだ者は四萬人を越え、地震に引續いて起つた流行病の爲めに二萬の人が斃れた。

當時の記錄を見ると堅牢な建物は全部破壞されたが、小さい輕い建物は却つて一部分の被害しか蒙つてゐない。魚が皆痲痺狀態に陷つて海面に浮び、野鳥は驚いて異樣な鳴聲を擧げ乍ら空を飛び、犬、驢馬、牛、馬等も恐怖に襲はれて咆哮の聲が天地を充滿したとある。當時の伊太利政府は狼狽して震災後の救護の實が擧らなかつたので、その地方の人民は奮起して市の廢趾や地震の害の少ない山上に平家のバラックを建つて再興に努めたものである。

× × ×

ポルトガルの首府リスボン市の一七五五年十一月一日の地震は市街の大部分を潰滅させ、然も津浪の來襲に會つて實に僅か六分間に六萬人の生靈を失つて了つたのである。

これは僅に數分間に於ける被害の甚大なる一例である。

× × ×

十九世紀の初頭、北米ニウマドリットと南米ベネジエラのカラキャスといふ街に地震があつた。此の時はオハイオ河附近には長さ二十哩からの湖水が一夜のうちに山現し、カラキャスではその日土地の祭禮であつたが地震のために一萬五千の人が死んだ、此の時も强震二回、最初の震動から九日目に二度目の强震があり、最初の地震で崩壞を免かれた家を全部倒して仕舞つたのである。カラキャスやその附近のラ、グエラといふ町の倒壞家屋の跡片付が濟んだのは一年後であつた。

日本の琵琶湖が一夜の中に出來たといふ神語めいた說も、强ち牽强附會の話とも思はれなくなつて來る。

【米國サンフランシスコ】の大震大火災は未だ吾人の記憶に新なる所である。一九〇六年四月十八日、前記地震帶に起つ大地震で震央實に一百十里、平面斷層は二十呎に及んだのであるが同港はむしろその震災よりは火災による破壞が激しかつたといふので、同市の人々は『桑港の大地震』と呼んでゐる。死者七百人、ピアード博士は今回の關東大地震の死者八萬の百分の一にも當らなかつたと言つて居る。流石の高層樓閣、巍然として天を摩せんとするの概ある輪奐の壯麗無比にして然も規摸の絶大なる是等の大建築も地震によつて大部分破壞し、遙に海上より望めば金門灣頭一帶の天地は黑煙と紅蓮の焰とに俺はれて全く祝融氏の跳梁跋扈を恣にせしめたのである。

昔の面影、今から百五十年前の昔を偲ぶ砂漠と癩木とに掩はれた楊柳蘆萩の砂濱にも劣らぬ有樣になつて了つた區域は二十八町四方に及び、我が安政二年の江戸の大地震の際に於ける延燒區域より廣きこと四倍、一六六六年のかの有名な倫敦の大火災よりも六倍の廣さ、今次の震災に於ける東京市の燒失區域の面積よりせまきこと約二分ノ一弱にあたる。

サンフランシスコと言へば太平洋沿岸第一の都會として、全米有數の貿易要塞港として、さては世界でも有名な歡樂鄕として、晝夜を分たぬ大繁盛を極めた所謂フリスコも、暴虐に振り廻はされた大自然の破壞のおのの下にはひと耐りもなく木片微塵に打ち碎かれたものだ。

その昔、未だ米國の國民が見る影もない憐れな生活を營んでゐた時代、當時世界の覇者として隆々の權威を恣にしてゐた西班牙の國王かのチャールス三世が、米國太平洋沿岸から内部各地方にかけて、自分の大嫌ひなジエスウ井ット派の僧侶達の盛んに傳道布教するのを聞いて大いに癪に障り、國臣ポートラをして壯丁二十五人を引卒して加州遠征を敢行させたものだ。ポートラの使命は僧侶の撲滅にあつたのであるが、一行がサンブラスといふ處からロレトと呼ぶほとりまでやつてくると、折から本國の急使が到着して、坊主をいぢめる事は中止して領土の探險と新港灣發見とに全力を傾注せよとのお達しなので、一行は俄かに目的を變更し山又山、丘又丘と經廻りつゝ只管前に前にと進んで行つたのである。一行のうちに技師オレガと言ふ男がゐた。彼れはただ一人一行と離れて尙ほも疲れた足を運ばせてゐると、遙か前方に當つて一つの灣口を見出したので、さてはとばかり驅けつけると、實に天然自然の良港、お誂ひ向きの港灣は彼れが一望の眼底に落ち來たのである。彼は思はず快哉を絶叫した。

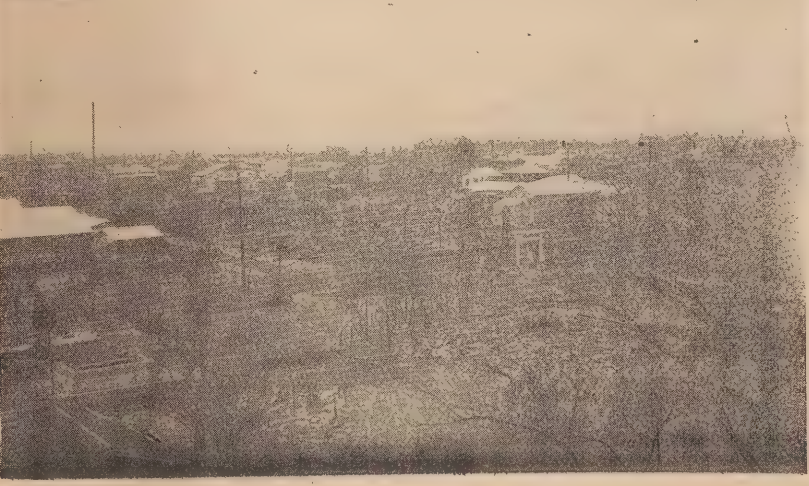
『あゝ金門よ！汝を我れ發見せり』

これが當時のフリスコであつた。こゝがかのアメリカニズムによつて樂天的に然も營々の精進努力で後の金門灣となり世界の大都會が建設さるゝに至つたのである。

前に波靜かな金門灣を控え後に廣漠たる原野を有する風光明媚の處、のみならず冬寒からず夏暑からず四時を通じ同じ衣服で押し通せるばかりでなく、働きさへすれば給金は幾許でも取れるといふ所謂デモクラチックな所、一寸外に出れば芝居、活動寫眞等の娛樂場は至る所に散在してゐる、さては日曜の散策に適する金門公園もあればクリフ・ハウスもあり、更に十五仙を投じて灣を越ゆれば、王府麥嶺附近の山紫水明な邊りにも遊べるといふ殖民地氣分の汪溢したプロ趣味であり全く天與の樂天地である。古昔モーゼに依つて率ゐられたイスラエル民族が四十年荒野を訪ねて後、漸く探ししたといふ乳と密の流るゝ加南の地も恐らく之には及ぶまいと思はれる。

されば全米國人の精神は此の太平洋岸の一海港に遺憾なく表象されてゐるのだ。この切つても切れぬ深い關係にある桑港、一


本郷の復興ぶり


本所業平方面工場地域の復興ぶり

朝自然の手に完膚なきまで打ち碎かれても桑港市民にとつては何でもない。

『ヘン！憚りながら桑港ッ子の意氣を見て呉んねえ』

と許り、樂天的で屈托なく、鼻ッ柱のつよい意氣沖天の勢ひを以て復興にとりかゝり、僅々三年間ににしてやつてのけた。

人間万事塞翁が馬だ、世の中の事は何が幸ひになるやも分らぬもので、桑港の都市計畫は、彼等の金力と意氣とを以て一瀉千里に確立され、此の震災があつた計りに空元氣に眞實性を加味した、以前より一層基礎の堅實な、そして一人よがりの途方もないのはせ方で、世界にも比類ない立派なものにして了つたのである。

嚮にビアード博士が今回の慘害を蒙つた東京市民への挨拶にも『市民諸君よ！市民諸君が此の世界的地震に處するの道は眞摯であると共に須らく樂天的であれ、而して復興の一途を進め！』と東京市民元氣の振作を説かれたのも實に意義ある味ふ可き言葉と思はれる。

『ローマは一日にして成らず』といつた言葉はサンフランシスコの復興に就いて許りは意味をなさぬ。

× × ×

一九〇八年十二月伊太利シシリー島の港市メシーナ地方に起つた大地震は同市人口十三萬八千人のうち實に八萬三千人を失つた慘害であつた。メッシーナ海峽に臨んだユートピア中の都南歐の美しい海港、葡萄酒、絹、柑橙の輸出港、絹、珊瑚細工の工藝も盛んに行はれて羅馬時代から最も繁盛を極めた土地であつたが、古來累時の震害に見舞はれて、歴史的の古代建築は同市から全く失はれてゐたのである。我國地震學の權威大森博士は當時同地を視察してゐたのであるが、伊太利皇帝陛下は博士を親しくその宮殿に招じ、地震に關する博士の研究を御聽取あらせられた。その學説によると、同市が斯くの如く過大な慘害を蒙つたことは主として健築の不備な爲めである。即ち日本家屋と比較して、同一程度の地震に於て日本よりは實に四百餘倍、多數の死者を出してゐる。そこで同市は博士の所説に従つて現在では大抵二階建になつてゐる。道路公園等震害防護に遺憾ない設計の下に復興され、早く既に人口二十萬を算し、簡素ながらもシシリー島の麗はしい都會となつてゐる。

此の地震にメッシーナ市と接續地方の災害とを合して死者十四万人の多數に及び世界最大地震の一つに數へられてゐる。

此の地震に就いてば現伊太利皇帝は直にメッシーナに行幸あらせられ、同市の救護事業について遺憾なき御指揮をなされたと共に、御自ら負傷者の擔架をお運びになつてゐられたのは世界でも名高い話である。

これも其の當時の話、丁度此の地震當日メッシーナの若い一婦人は、西洋人の習俗で、ブードワールの一隅のベットの上に、柔かい滑かなカーペットの肌ざわりを懐しみながら、全裸體のまゝ横はつてゐた。その折も折り、此の大地震だ。突差の間にあはれ此の邸宅は倒潰して了つた。ブードワールにゐた嚮きの婦人は幸ひに微傷だも負はなかつたが、身にまとふ可き一絲すらもない。婦人は天を仰いで嗟嘆した。救護の男は女の泣き聲に近づかうとした時、件の婦人は嚴として之を峻拒した。救護の男は夫れと覺つて衣類を持つて來たが、婦人は異性の前に自分の肌を表はす耐えきれぬ羞耻に自ら頭部を打ち碎いて死んで仕舞つた。

是れと反した事實が今度の地震後に見られた。其處は丸の内だ。潔癖な日本人として灰燼と連日の苦闘とに汗と埃で汚れた身體を洗ひ清める心算で、避難場所から出て來て水道栓の破れ個所から噴出してゐる水溜りに二三の若い婦人は行水してゐた。行き交ふ人々はその奇異な情景に眼を瞠つた。新聞社や通信社の寫眞班は我れ勝ちにレンズを向けた。その婦人達は悠々身體を淨めて立ち去つた。

この寫眞の公表は其の筋から嚴しいお達しを以て差し止めになつた。新聞雜誌が發賣禁止の厄にあつたのは皆此の寫眞を掲げた爲めである。

前のメッシーナの婦人と對照してみると頗る興味がある。人情風俗の異る點、東西婦人の羞耻觀念の相違點、啻に夫ればかりではない。此の事實を考へると妙に一種皮肉な微笑を禁じ得ない。

此の稿を終るに當つて復興の芽生ひの漸く萠えそめた東京をはじめ罹炎地の各々を、筆者はもう一度心を落ち付けて眺めてみたい。

若き東京市が復興への歩みはどうか。更に再び立つ能はずと迄悲觀される不幸なる横濱市はどうか？

吾國に於ける震災

これまで世界の地震に就いてその幾つかをを叙述した筆者は今猶ほ我が國に於ける古來の地震と是れが有樣とを語るのが順序であらう。

凡そ今次の關東地震は其の被害の激甚なる點に於いて古今未曾有の悲慘事であつたが、是れに類する地震は歴史上に幾度か繰り返へされ且つ見受ける所である。自然が不意に何等の豫告もなくその大地震を下し悲壯なる破壞を逞しふする毎に、奈何に人類は狼狽したことか！　そして如何にその奮闘力を回復して復興の業を成し遂げて來たが！　泌々とした心持ちで是等の史實を辿つて考へれば、其所に人類としての慘めさがあり、同時に人類としての大なる誇りを感ぜずにはゐられぬのだ。

縱横に網の目もたゞならぬ火山脈の分布と例の地震帶の分布とに與る我が國は誠に有り難くないが世界有數――むしろ世界第一の地震國として著名である。中失に富士火山脈、北部に千島火山脈、那須火山脈、南部に阿蘇火山脈、霧島山脈があり、尚ほ日本海には幾他の小火山脈があつて火山の數實に三百以上に及んでゐる。

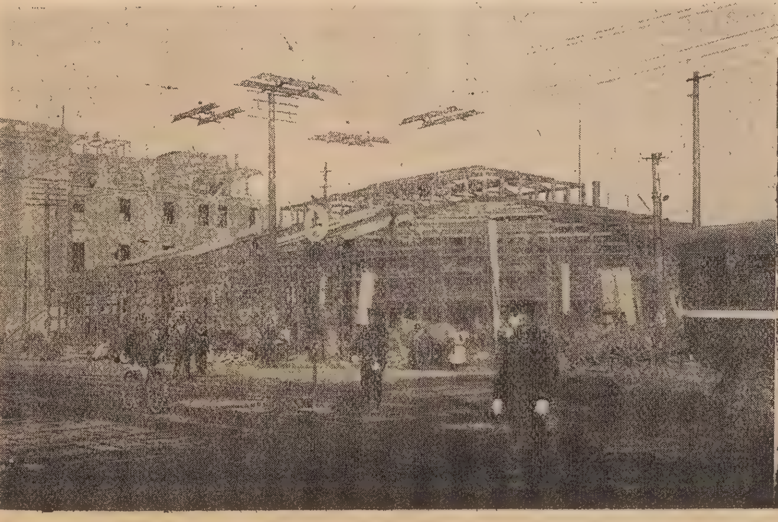
隨つて是れが學術上の研究は世界的權威として遍く學界に重きをなしてゐる。

米國のカーペンター氏の亞細亞紀行中にも『紙のドア、紙製の戸を以て室の内外を割る日本家屋の室内に、吾人は植物を織つて作れる疊の上に立つであらう。そして件の紙製ドアを横樣に引き開ける。我が國の田園住宅に屢々見受ける軒の長く差し出た下には木製の極めて滑かに拭はれたベランダがある。吾人は先づ此所に立つて美しい風景を眺める事が出來る。菜種の花や櫻の花を越して洋々たる波の海上遙かに、緣濃かな一帶の松林に劃られて休火山富士山が望める。日本は古來有名な火山國である、到る處火山がある。その昔、彼等は此の地球の内部に最大なる魚が棲んでゐて、それが鰭を振り尾を振る度に地震は免がれぬ、此の魚がその横腹を見せて寢返りを打つ場合は激震と心得てゐるのだ。晩近、日本に於ける學術の進歩は驚く可きもので、殊に斯うした思想を抱いてゐた昔から現今に至るまで僅々五十年間に、地震學に關する研究とその論據とは世界に於いても動かすべからざる絶對的權威である』と言つた意味のことが記されてあつたと記憶する。

火山地震と斷層地震、それから陷落地震と、地震と名づく可き地震は古來我が國を頻々として見舞つたのである。人皇第七代の孝靈天皇の御代か又は第九代の開化天皇の御代に於ける富士及び琵琶湖の成生の神話的傳説は暫く後廻しにして、やゝ信頼すべき記録に表はれた地震について言へば早いところでは我が紀元一六〇七年、第十九代允恭天皇の御宇五年七月十四日の地震であらう。我が國上古の外交史上に、燦として光焰を擧げた時代、神功皇后、應神天皇の御代から引續いて、三韓の百濟及び支那宋朝からも使節が來朝して方物を献じたこともあり、文學や工藝の進歩は誠に著しいものであつたし、また醫術やその他の學問も漸時發達して來た時であるから、地震に關する記録も正確に近いものと想ふ。爾來今日まで大約千五百年間、その間記録に表はれた地震は約千四百回を數ふることが出來る。そのうち及そ四百回は現今から推定して相當の大地震と思はれるが、其の間に永く地震の記録の見當らぬ時代もあるから、恐らくそれ等記録以外の、邊地に起つた局部的地震など記録されずに過ぎたであらう。從つて現在から考へると、必ずやもつと頻繁にあつたものに違ひないと想像し得る。今日の如く精巧な地震計により、また



日本橋三越呉服店


日本橋の四ッ角。白木屋呉服店の前

は記錄されるならば、現今と同樣、實に寧日なき有樣と言つてよい。平年、僅に東京のみでも一年間に七八十回の地震を感ずる。然も今次の大震後——九月一日午前十一時五十八分四十四秒六の發震後、その後の十二時間に人體に感じた餘震百十回以上、次の十二時に八十八回、次に六十回、次に四十七回、更に地震計にのみ感じた程度の地震を算するなら三日間に千七百餘回の多きに上つてゐるといふ。平均三個年分の地震を唯だ此の三日間に經驗した事になつてゐる。太宰春臺がその文章のうちに、地震のない國に行つたらさぞかし幸福であらうと云つたやうに、我が國土では如何なる土地でも、多いか少いかの區別こそあれ、地震のない所は無い。大體に於いて日本海に面せる方よりも太平洋に面せる表日本に多いのは勿論であるがそれでも越前、越後、秋田、但馬、伯耆、石見、及び佐渡等を震央とした大地震もあつたのである。ただ比較的少く且つ安全地帶と稱すべき所は先づ瀬戸內海沿岸の山陽道だと言はれてゐる。

古來から著明な地震として注目されてゐるのは關東に於いては江戸附近、房總地方、湘南地方及び濃尾地方で、關西に於いては京都附近、奈良附近、紀伊、丹波、播磨及土佐であらう。

其他各地に散在分布してゐる大山系による大山地震、火山の鳴動、爆發又は噴火によつて直ちに起る地震、また鳴動、爆發或は噴火等の原因によつて脆弱な地震に斷層を生じて起る間接地地震は隨分多い。富士山、淺間山、阿蘇山、櫻島、温泉岳、盤梯山、有珠岳、及び日光山等大山地震を惹起した著名な山である。

玆に昔から文書歷史による比較的著明な大地震とも言ふべきものを列擧すると次の通りである。

白凰十三年　四國黑田鄕の陷沒（西紀六八五年）
靈龜元年　三河、遠江地方に於ける地震。（同　七一五年）
天平十七年　美濃地方に於いて激震あり。（同　七四五年）
弘仁九年（同　八一八年）
相模、武藏、下總、常陸、上野、下野等關東一圓に亘る地震。
天長四年　九月一日（同　八二七年）
承和七年（同　八四一年）
伊豆に於ける地震。
貞觀元年　九月一日（同　八五八年）
同　九年　九月一日（同　八六六年）
元慶二年（同　八七四年）
武藏、相模附近に起れる地震。
寛治三年（同　一〇八九年）
京都附近を震央とせる地震。
文治元年　九月一日（同　一一八五年）
建久二年（同　一一九一年）
鎌倉幕府（頼朝）時代鎌倉に起りて記錄せられしもの。
正嘉元年（同　一二五五年）
鎌倉地方の地震。
文永三年（同　一二六五年）
鎌倉地方の地震。
永正七年（同　一五一〇年）
遠江海岸の陷落地震。
慶長元年九月四日（同　一五九六年）
京都附近。
同　六年（同　一六〇一年）
房總地方に起れる地震。
同　十年（同　一六〇五年）
關東諸國の震災。
元和元年（同　一六一五年）
江戸近傍の地震。
寛永十年二月十日（同　一六三三年）
關東地方、相州小田原地方激甚。
同　年四月八日（同　年）
江戸の地震。
正保四年六月十五日（同　一六四七年）
江戸の地震。
慶安元年六月十二日（同　一六四八年）
相模地方の地震で津浪も伴ふ。
同　二年七月廿五日（同　一六四九年）
江戸の地震。
同　年七月三十一日（同　年）
江戸の地震。
同　年九月一日（同　年）
江戸近傍、川崎邊殊に激震。
同　年九月三日（同　年）
江戸の地震。
同　年九月十日（同　年）
江戸の地震。
同　三年四月廿三日（同　一六五〇年）
關東一圓。
寛文九年九月六日（同　一六六九年）
江戸に起つた地震。
延寶六年十月二日（同　一六七八年）
江戸の地震。
天和三年五月一日（同　一六八三年）
日光山噴火による地震。
元祿九年七月十七日（同　一六九六年）
江戸に起つた地震。
同　年十一月廿六日（月　年）
江戸の地震。
同　十六年十二月卅日（同　一七〇三年）
關東、東海道一帶に及ぶ大地震及び津浪。
寶永三年十月廿一日（同　一七〇六年）
江戸の地震。
同　四年十二月十六日（同　一七〇七年）
富士山噴火に伴ひ駿遠地方激震あり。
享保三年三月十一日（同　一七一八年）
江戸を中心として起りし地震。
同　十七年二月八日（同　一七三二年）
江戸の地震。
同　二十年八月廿日（同　一七三五年）
東海道一帶の地震。
明和八年六月十四日（同　一七七一年）
江戸の地震。
同　年七月十三日（同　年）
江戸
安永七年四月十四日（同　一七七八年）
伊豆大島噴火に伴ふ地震。
天明二年八月廿二日（同　一七八二年）
江戸
同　八月廿三日（同　年）
江戸
同　三年三月四日（同　年）
江戸の地震。
同　八月？（同　年）
淺間山噴火、地震諸國に及ぶ。
寛政二年十二月（同　一七九〇年）
江戸
同　四年八月十六日（同　一七九二年）
江戸
同　五年二月十七日（同　一七九三年）
江戸。
同　六年十一月廿五日（同　一七九四年）
江戸。
文化六年四月五日（同　一八〇九年）
信州地方に起つた地震。
同　年十月三日（同　年）
富士山崩れに伴ふ。
同　九年十二月七日（同　一八一二年）
江戸、及び近國地方、程ヶ谷宿最も激し。
文政九年春期（同　一八二六年）
江戸。
同　年秋期（同　年）
江戸。
天保五年五月十六日（同　一八三四年）
富士山近國地方。
弘化四年五月八日（同　一八四七年）
信濃地方。
嘉永元年六月八日（同　一八四八年）
江戸に起る。
同　六年三月十一日（同　一八五三年）
江戸、相模、伊豆、三河及び遠江に及ぶ。
同　三月十二日（同　年）
前項と同じ。
同　三月廿二日（同　年）
前項と同じ。
同　年十一月四日（同　年）
江戸及全國大半に及ぶ。
安政二年十月二日（同　一八五五年）
江戸及びその近傍諸國に及べる大震災。
明治廿二年七月廿八日（同　一八八八年）
九州熊本の大地震。
同　廿四年十月廿八日（同　一八九〇年）
濃美大地震。震域本州四國及び九州に及ぶ。
同　廿七年六月廿日（同　一八九三年）
東京に起れる地震。
大正七年十一月廿一日（同　一九一八年）
信濃國大町附近を震央させる地震。
同　九年五月十三日（同　一九二〇年）
伊豆大島附近を中心とせるもの。

此のうち白凰十三年の四國黑田鄕が海中に陷沒した地震は『日本書紀』に見える所の、天武天皇の十二年、京都及び諸國に亘る大地震、就中土佐の國最も激震で、田園五十萬坪海となり、此の陷沒によつて土佐灣を生じたと言はれる夫れと思はれる。永正七年の同じく震域の廣大な大地震があり、遠州の海岸が陷沒して今切が出來たと同樣に、地震が海岸線に一大變化を與へたものである。

天平十七年の美濃の大地震は三日三夜續いたもので地裂け水湧き、可なり激しい被害があつた。美濃の佛寺堂、塔、民家等悉く崩壞した。

弘仁九年の地震はその震域頗る廣く相模武藏、下總、常陸、上野、下野に渉つた大地震で壓死者も非常に多かつたらしい。

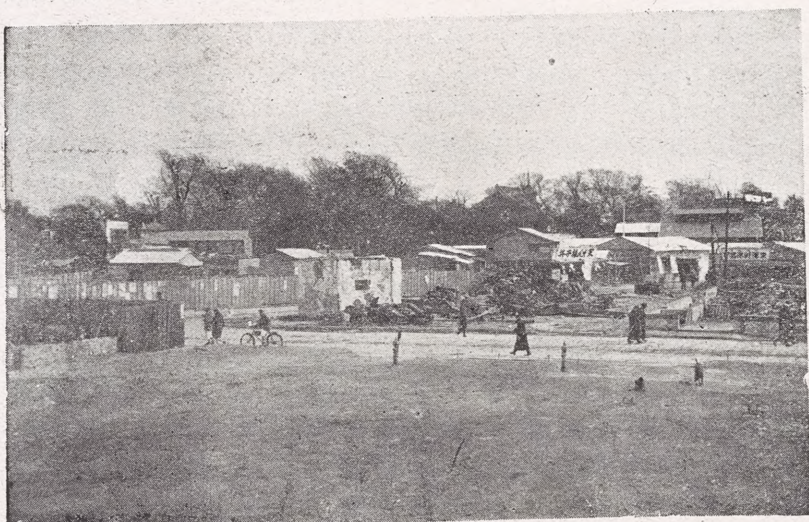
元慶二年に起つた關東の大地震はその慘害一層激甚であつて民家の一だに全きものはなかつた。そして壓死者は數へきれなかつた。此の地震の震央ば武藏、相模で今回の地震と略ぼ同樣である。勿論當時は人口も稀薄であつたから、到底今次の如き夥しい數ではない。

慶長の地震は元年の九月四日、同六年、及び同十年の三回に亘つて大地震があつた。元年の地震は京都及諸國に渉る大地都で、就中京都が最も激甚であつた。此の震災によつて秀吉の伏見城は大破し、城中の上臈女房七十三人、仲居下女五百餘人も壓死したのである。此の地震は九代目團十郞の得意とする「地震加藤」によつて周ねく知られてゐる。

慶安二年江戸に起つた地震、及び元祿十六年の關東、東海道の地震及び之に伴ふ津浪とは何れもその被害の大なので有名であるが、やはり世人に最も强い印象を與へてゐるのは安政二年の大震、明治二十四年十月二十八日の濃美地方の地震、及び今次の大地震であらう。

安政の地震は今の夜の十時、當時は行燈蠟燭が燈として用ひられたもので、月光もなく總て暗黑であつた。此の地震では水戸藩の藤田東湖、戸田忠太夫等の名士が壓死した。今泰平年表によつて見ると、死者十三萬二千四百人、負傷十萬餘人とある。「安政見聞記」など當時の震災の摸樣、復興の工合等うかゞはれる。


淺草中見世の雜鬧。賑ひは以前と變らない


淺草六區の復興ぶり

濃尾の大地震は震域頗る廣く本州を越えて四國九州にまで及び、東北は青森にまで達した。

家屋の倒壞するもの二十二萬五千五百餘戸、死者七千二七百十三人。負傷者一萬七千七百人に及んでゐる。

今次の震災は前記二者の被害程度と比較すると、震動の程度は强ち今回のが强烈とは云はれぬ。濃尾地震の經驗ある者の談によると、彼等の體驗からは濃尾に比して決してひごくはなかつたといふことで、むしろ大災による慘害が實に古今を絕してゐるのだ。

東京市、同郡部、橫濱市、神奈川郡部、靜岡、千葉及び埼玉の各縣に亘る被害として燒失及倒壞戸數四十四萬八千二百八十八戸死傷者の數實に二十一萬九千九百九十四人に及んでゐる。

傳說が物語る我國の地震

此の如く累次頻々として諸國を見舞ふ地震に就いて古來さまざまの迷信や傳說の生れることも否まれぬ。例の富士山と琵琶湖の生成說なぞ、往時の人の單純な心を强く刺戟し、地震の限りなき强大な力を恐れしめたものだ。後世の覺束ない記錄ではあるが、『開化天皇十八年辛丑、もろこし年號健元元年の始めなり、あふみの水海一夜に出づ。するがに富士山一夜に出る』とある。面積四十五方里の土地、忽ち一夜のうちに陷沒して所謂あふみの水海となり、同時に富士山が現出したといふのである。

琵琶湖と富士山、その容積に就いては勿論比較にならぬほご富士山の容積は廣く、凡そ四十倍の大さであるが、この傳說は日本民族の原始的な單純な思想を表はしたものだと云はれ敢て說話の實否に深く拘泥すべきではないのである。

つまり其の頃の人達は、たゞに琵琶湖の陷沒に止まらぬ、例へば諏訪湖が陷沒したと同時に淺間山が隆起したと說くと同樣、一方に凹所が出來れば他方に必ず凸所を生ぜねば濟まぬものと考へたもの、頗る遲愚な解釋と思はれるが、實は、地球が地熱の放散と共に其の容積を收縮する力——所謂造山力によつて固體たる地球の外殼面上に緩漫な凹凸を生づる山脈及海洋湖沼生成の一般的原因と、此の原始的解釋とが或る一致點を有する所、甚だ面白いと思ふ。

地球の變動、水陸の變態が絕えず行はれてゐることは、大陸及山脈の生成から考へて誰れにも首肯し得ることである。此の連續した作用が一世紀か十世紀か、或はまた幾世紀の後にか、兎に角その運動が徐々たるが故に著しく目擊することはできないが、之を認知すべき證跡は少くはないのだ。總じて是等を『時』の支配下に於いて行はれる自然の數と觀られる。地殼の收縮に伴ふ地表の皺面は山岳を形成し溪谷を形ちつくるが加き、地盤の一部が沈降落下する時は湖水または濠を形成し、地殼の收縮力が水平に働く結果、所謂その橫壓力が沈降せる陸地の周邊に狹く且つ烈しく作用するを以て地皮は特に此の部分に於いて愈々隆起し山は益々高くなるが如き、又はかの汀線の上昇下降の如き、更にまた陸地變動の化學的作用としてかの浸蝕、沈積、土砂運搬の作用の如き、是れを隨所に認めることが出來るし、古來その類例に乏しくない。

我國に於ても之を遠く淺間山諏訪湖に求めるまでもなく、今次の大震の後を享けて相模國大山の町に崩れた眼前の事實、更に遡つては遠州今切の出現の如き、斯る事實は、啻に何世紀間と長いことは言はずとも牧擧に遑なき程である。されば傳說の時代に、地殼が陷沒し、地表が隆起し、古への山頂は溪谷となり、溪谷は變じて山頂となつたなぞの變遷がごのくらい行はれたかは想像するに餘りがある。現にアルプス山脈の背が北方へ北方へと少しづゝ退却して行くといふ事實を以ても、山容水態が必ずしも常住不變のものでないことが判る。

古人が富士、琵琶湖の生成の映視も强ち無理からぬことである。

古來から土地の隆起や陷沒に、靈妙な音樂が聞えるといふことは、現今でも頑固な古老が信じてゐる所である。この幽玄壯麗な感じは大自然の鳴動が神秘化されて考へられたことに違ひないのである。

天地開闢のそのはじめ、天照大御神が、常陸の國筑波山に天降りましまして琴を彈ぜられると、東海の浪はその妙なる樂音に感じて山の麓まで押し寄せて來た。其の浪が、地面の凹所に湛え殘されて後の霞ヶ浦となり、波のつく山といふ意味で筑波山といふ名が出來たのもその例である。

一夜天樂頻りなる折柄、富士山ひよこり湧き出したなご實に面白い話だ、以下少しく藤澤彥衛氏の文獻に探らう。

今の甲斐の國北都留郡大目村の人達が、不思議な妙音と思つて、寢卷のまゝ表へ飛び出してみると、眼の前に途方もない高い富士山が湧き出てゐたので、大きな目を瞠つて二度びつくりしたといふ。

同じ郡の賑岡といふ所の村人たちは、不思議な音響で大層賑かなやうだが、何事であらうと雨戸を繰つて見て、『やあ！　お山の引越しだ』と云つて驚いたといふので賑岡の地名となつたと云ふ。

又、今の南都留郡大嵐村の人達には、寢耳に水ではない不思議な響きを聞いて、はじめ、大嵐でも襲つて來る前兆かと、こわごわ節穴から覗いて見たらば、雲に突きぬけた靈峰だつたので、『これはごうだ！　天と地と繫つた』と驚き叫んだ。

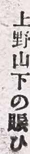
そのまた隣村の鳴澤では、怪しい沼の澤鳴りかと思つて、皆大騷ぎをしたが、確めて見たら富士の山鳴りであつた。

道志村の人たちは『これはごうしたことだ！　天と地とが繫がるのかしらん』と驚き叫んだといふ。

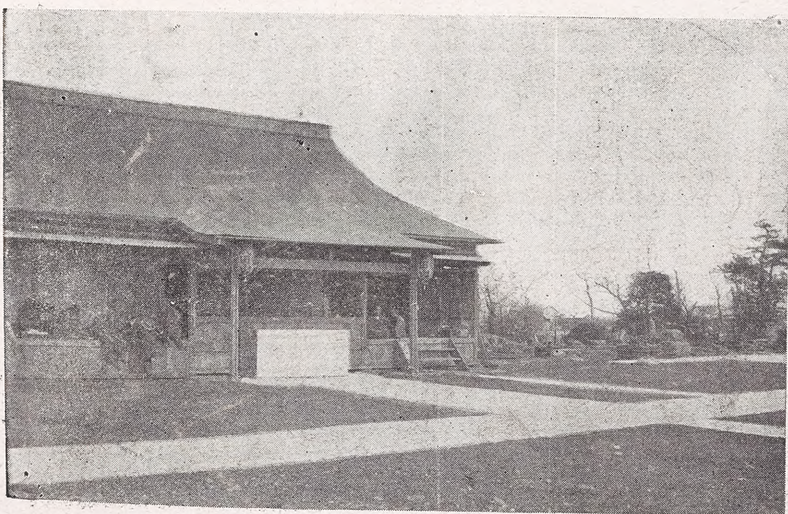
平栗の里の人達は、また、『天のお成りか地のお出ましか』と、地面に身を伏せて、ぶるぶる慄へた有樣が、毬栗の平つくばつたやうに見えたといふので、今では其の地は、そういふ名で呼ばれるといふのだが、たゞ獨り、今の南都留郡の明日見村の人達ばかりは、一向そんな音樂をも、山鳴りをも不思議がらず、音響や世間の騷がしさをも氣にとめず、翌朝になつても、誰れ一人、表に出て其の不思議な靈峰を見やうとする者がなかつたので、近くの村のおせつかいが「おうい、此の村の衆よウ、出來り上手見さつせ(出て上の方を御覽の意)はんて。(急いで急いでの意)」と觸れて步いたが、此の村の人達は誰れも彼れも「明日にせい、明日見やう」と答へて、其の日には誰れ一人出て見る者がなかつた。もう此の村からは、見ようとしても見られないやうに、富士山の方でそつぽ向いてしまつた。そこで、此の村は何處からも永久に富士靈峯の姿を拜むことの出來ない明日見村になつて了つた。なご言はれる說明的傳說がある。

このやうに一つの山岳が音樂によつて躍り上つて來ることは啻に山岳出現、平地突出の上にばかり行はれる附帶條件ではなくして、あらゆる陸地出現說の場合に於いても行はれることで、開化天皇の六年四月、相州江の嶋の湧出に對しても、亦江州湖中に竹生島が湧き出したに對しても「緣起」がその奇瑞を記錄し、その出現鳴動に靈妙な音樂を附隨せしめたことは、ただに緣起作者の作意によつたとのみ觀るべきものではなく、民間傳說のこれを承傳する場合多いと言はれてゐる。

× × × × ×



上野山下の賑ひ



深川不動尊の假本堂

編輯雜記

=地方會員諸君=
=へのお詫び=

✕

驚く勿れ、百億の財物を氣前よくも祝融氏の暴虐の手に委してしまつたのだから、そのむごたらしくも怖ろしい今度の震災に會したことは或る意味に於て幸運（もすこしヘンだが）かも知れない。幸運に異議あらば潔く取消して、扨て何と申さうか？千歳一遇も大きいから今村博士のお說に從つて百三歳一遇の大事變に遭遇したことは、容易ならざる運命を吾れ〳〵は宿してゐたものだと云はう。

✕

九月一日の災厄より、それ以上の災厄があらう筈はない。故につまらぬ愚痴や不足はむしろ「バチ當り」だ位に扱はれては恐縮するが、實際本社は例の災厄後一種の餘震に再三見舞れたものだ。

✕

社は燒かれ、編輯の材料は灰と化し、殆ど手の着けようもない折柄を緊褌一番して「關東大震災號」に着手した。着手はしたがドサクサまぎれの粗製濫造が生れつき大嫌ひである本社同人は、名狀すべからざる苦心の下に發行を忙いだ。吾れらの意氣を天は感じたか仕事は頗る順潮に進んで、數日にして畫報界に本誌の盛名を謳はれんとするまでに運んだが、突如第一の餘震が襲來した。



上圖、本社臨時販賣部の前に殺到した購求者の群集。
下圖、臨時販賣部の裏手にまで殺到してゐる。

✕

餘震といふのは他でもなく、震災號寫眞版の主力印刷工場から原因不明の自火を發したことだ。その爲に大半の印刷物は勿論、寫眞銅版から工場の印刷機械まで無殘にも燒けられてしまつた。この凶報一度飛來するや、社長の驚愕はさらなり、斯くいふ編輯者までが呆然自失したことは記すまでもない話。

しかし、この災難に會して「困る」のは男らしくもない、電閃の如き活躍は直ちに開始された。蓋し即日にして應急手段が講ぜられ、輪轉機の音もすさまじく、その夜から燒けた印刷物がインクの香も新しく刷り出された敏速振りは、吾れ乍ら感に堪えた活動であつた。

✕

應急策の効を奏して震災號はいよ〳〵出來した。ポスターは辻々に貼り出される註文は殺到する、臨時販賣所の表も裏も人の山といふ凄い景氣であつた。然るに突如第二の餘震が來たのだ。それ即ち「發賣禁止」といふ大痛棒だ。編輯者から云はせれば格別痛棒を喰はせられる程惡いことをした覺えはない筈だが、兎に角その筋の忌憚に觸れたのだから致し方がない。

又しても應急策だ。人を四方に走らせ、車を八方に飛ばした結果漸く當局の諒解やら、善後の處置やらも濟んで餘震は納つた。

✕

以上の次第で發行が遲れてしまつた。電車のない東京市内の不便は勿論、地方の輸送機關と來たら丸で話にならない程で本誌を送らうにも船も汽車も意の如くならず、徒に同人を焦慮せしめるばかりであつた。地方支局から火のつくやうな催促、會員諸君からは手紙にハガキに矢の催促、申譯ないことは充分知り乍ら非常な遲延を來してしまつた。七重の腰を八重に折つて陳謝の意を表します。次號からは大に敏速を期して活躍をしてゐるから幾重にも御諒恕を乞ふ。

✕

「世界の大震と復興」に就ては編輯に多大の犧牲を拂つた。同號發刊の趣旨に就ては別項の如くであるが、震災氣分のお粗末なるものと違ひ、平時狀態に戻つて光彩陸離たるものをお目にかけるのだからその苦心はお話の外であつた。同人の氣分は平時に戻つても印刷所やその他は未だ〳〵復舊されてゐないのだから、その困難は非常なものだ。しかし、兎に角他人の知惠を無斷借用したり、ニセものをつくつたり大にこの方面で智力の經濟をはかつたところの某々畫報に比して依然盤石の如き重きを、ダイヤモンドの如き光を放つものが出來上つたのは何よりの滿足である。

今年は折角幸福な年であれと祈つた甲斐もなかつた。それ故氣を腐らした譯ではないが、下手なものを編輯するよりも「世界の大震と復興」號を以て年內の打ち切りとする。その代り大正十三年の新年號こそ復興の意氣滿々として諸君にお目にかゝる覺悟であるから幸に深甚なる御聲援をお願ひする。

感慨無量なる終刊號を捧げるに臨んで、謹で諸君の爲に來るべき十三年が多幸の年であらんことを祈る。

✕

附記―本號の編輯に就て、帝大地震學敎室の諸氏、就中今村博士、加藤助手の御援助に深く感謝の意を表する。

The Play & Movie

劇と映画



高級画報

よく「劇と映画」のオ二号が出来ました。復興の意気は晩秋の空高く、震災後の劇界・映画界に唯一の高級画報としてダイヤモンドのような光輝を放ってゐます。

創刊号に更に一段の磨きをかけた本号は間違ひなく、諸君を狂喜せしめ、吃驚せしめることゝ信じます。

十二月上旬發刊

●毎月一回一日發行
●イギリス式合版、表紙全面三色版、
●毎號 美麗なる口繪と、オフセット原色版、三色版二色版、寫眞版等

●毎號、四十頁以上
定價金八十錢

●綴込保存表紙
特製 金八十錢
並製 金五十錢

「劇と映畫」の體裁と定價

國際情報社發行

定價 一部 金壹圓貳拾錢(送料貳錢) 一年極讀者 毎月金壹圓(送料貳錢) 滿鮮臺灣其他金壹圓參拾錢(送料四錢)
大正十二年十一月 十日印刷納本
大正十二年八月二日第三種郵便物認可
大正十二年十一月十五日發行
第二卷第十二號(毎月一回一日發行)
發行人 東京市京橋區山下町二十三番地 石原俊明
編輯者 印刷人 東京市赤坂區高樹町八番地 大澤米造
印刷所 東京市麻布區笄町八十一番地 大江印刷株式會社
印刷所 東京市外角筈新町 [illegible]印刷會社分工場
臨時發行所 東京市赤坂區青山南町六丁目百八番地 國際情報社
電話青山 二八一番
振替東京 四五〇〇番